

【神学研究科】

◆ DP ◆

【博士課程前期課程】

博士課程前期課程の教育目標を下記の通り定め、本課程に2年(4学期)以上在学して所定の単位を修得し、かつ研究指導を受けた上、修士論文を提出して、その審査および所定の試験に合格した者に修士の学位を授与する。

1. 神学において専門的な知識を修得し、思索を深めている
2. 各自の専門領域において、優れた特色ある研究を行う能力を有している
3. キリスト教の本質にふれつつ、幅広くキリスト教に関する知見を養い、多元化社会において深い見識をそなえ、具体的な社会や世界の問題を発見し、これに対してキリスト教的な立場から取り組み、解決できる力量を身につけている
4. キリスト教伝道者コースにおいては、礼拝の指導者、説教者、牧会者として宣教の現場で直ちに活躍しうる力量を身につけている。
5. 修士論文を執筆できる能力を有している

【博士課程後期課程】

博士課程後期課程の教育目標を下記の通り定め、本課程に3年(6学期)以上在学して所定の研究指導を受けた上、キャンディデート・ステータス取得後に博士論文を提出して、その審査および所定の試験に合格した者に博士(課程博士)の学位を授与する。

1. 神学の様々な分野における専門的学識を有している
2. 神学の専門家として社会と教会とに貢献できる能力を有している
3. 博士論文を執筆できる能力を有している

なお、学位申請論文の審査は、専門分野での最新の知見を摂取したうえで独創的な視点で、高度な分析手法と優れた考察力などによって論文が作成され、国内外の学界や社会へ著しく知的貢献が大きいものとなっているかどうか等を基準に学位授与の可否の判定がなされる。

◆ CP ◆

神学研究科では、神学を専攻領域とし、その中に、4つの研究分野(聖書分野、歴史・文化分野、組織分野、実践分野)を設けている。学生各自が研究主題を選び、指導教員との学問的、人格的な触れ合いによって、それを深め、学位(修士、博士)を取得できるよう、研究と教育を行っている。

【博士課程前期課程】

神学の専門的知識の獲得を目指し、4つの研究分野の領域において以下の教育を行うためそれぞれの科目を配置する。

1. それぞれの研究分野における専門的知識等の修得を目指し「特殊講義」を配置する
2. 聖書を原典で読む能力の涵養のために「原典講読」を配置する
3. 神学の専門的知識に加えて言語力の向上を目指して「外国語専門書講読」を配置する
4. 教会をはじめとした現場での実習を伴う科目を配置する
5. 伝道者コースにおいては、宣教に携わる能力の涵養のため、牧会、説教、礼拝、教会経営について「演習科目」を配置する
6. 研究能力の涵養と、修士論文の執筆の指導のため「研究演習」を配置する

【博士課程後期課程】

1. 博士論文の執筆の指導のため、「研究演習」を配置する
2. 専門的学識を深めるため4つの研究分野において「特殊研究」を配置する

【文学研究科】

◆ DP ◆

文学研究科のディプロマ・ポリシー（DP）を以下のとおり定める。

文学研究科は、人文科学の基礎領域及び応用実践領域での研究者・高度専門職業人と、知識基盤社会を支える高度で知的な素養を有する人材の養成を目的としている。その目的に照らし、博士課程前期課程においては、高度な専門的知識を備え、柔軟な思考能力ならびに優れた技能を身につけた学生に対し、学位を授与する。博士課程後期課程においては、前期課程で得た知的素養を継承しつつ、現代の高度な学問の進展に応じた研究をさらに推進し、その成果を社会に発信していく能力を身につけた学生に対し、学位を授与する。

本研究科は、以下の専攻分野において、それぞれ次の方針に基づき学位を授与する。

1. 文化歴史学専攻

(1) 修士（哲学）

博士前期課程において、哲学倫理学に関する高度な専門的知識を備え、柔軟な思考能力ならびに優れた技能を身につけた学生に対し、学位を授与する。

(2) 修士（美学）

博士前期課程において、美学に関する高度な専門的知識を備え、柔軟な思考能力ならびに優れた技能を身につけた学生に対し、学位を授与する。

(3) 修士（芸術学）

博士前期課程において、芸術学に関する高度な専門的知識を備え、柔軟な思考能力ならびに優れた技能を身につけた学生に対し、学位を授与する。

(4) 修士（歴史学）

博士前期課程において、日本史学・アジア史学・西洋史学に関する高度な専門的知識を備え、柔軟な思考能力ならびに優れた技能を身につけた学生に対し、学位を授与する。

(5) 修士（地理学）

博士前期課程において、地理学地域文化学に関する高度な専門的知識を備え、柔軟な思考能力ならびに優れた技能を身につけた学生に対し、学位を授与する。

(6) 博士（哲学）

博士課程後期課程において、前期課程で得た哲学倫理学に関する知的素養を継承しつつ、現代の高度な学問の進展に応じた研究をさらに推進し、その成果を社会に発信していく能力を身につけた学生に対し、学位を授与する。

(7) 博士（美学）

博士課程後期課程において、前期課程で得た美学に関する知的素養を継承しつつ、現代の高度な学問の進展に応じた研究をさらに推進し、その成果を社会に発信していく能力を身につけた学生に対し、学位を授与する。

(8) 博士（芸術学）

博士課程後期課程において、前期課程で得た芸術学に関する知的素養を継承しつつ、現代の高度な学問の進展に応じた研究をさらに推進し、その成果を社会に発信していく能力を身につけた学生に対し、学位を授与する。

(9) 博士（歴史学）

博士課程後期課程において、前期課程で得た日本史学・アジア史学・西洋史学に関する知的素養を継承しつつ、現代の高度な学問の進展に応じた研究をさらに推進し、その成果を社会に発信していく能力を身につけた学生に対し、学位を授与する。

(10) 博士（地理学）

博士課程後期課程において、前期課程で得た地理学地域文化学に関する知的素養を継承しつつ、現代の高度な学問の進展に応じた研究をさらに推進し、その成果を社会に発信していく能力を身につけた学生に対し、学位を授与する。

2. 総合心理学専攻

(1) 修士(心理学)

博士前期課程において、心理学に関する高度な専門的知識を備え、柔軟な思考能力ならびに優れた技能を身につけた学生に対し、学位を授与する。

(2) 修士(学校教育学)

博士前期課程において、学校教育学に関する高度な専門的知識を備え、柔軟な思考能力ならびに優れた技能を身につけた学生に対し、学位を授与する。

(3) 博士(心理学)

博士課程後期課程において、前期課程で得た心理学に関する知的素養を継承しつつ、現代の高度な学問の進展に応じた心理学の研究をさらに推進し、その成果を社会に発信していく能力を身につけた学生に対し、学位を授与する。

(4) 博士(教育心理学)

博士課程後期課程において、前期課程で得た学校教育学に関する知的素養を継承しつつ、現代の高度な学問の進展に応じた教育心理学の研究をさらに推進し、その成果を社会に発信していく能力を身につけた学生に対し、学位を授与する。

3. 文学言語学専攻

(1) 修士(文学)

博士前期課程において、日本文学・英米文学・フランス文学・ドイツ文学に関する高度な専門的知識を備え、柔軟な思考能力ならびに優れた技能を身につけた学生に対し、学位を授与する。

(2) 修士(言語学)

博士前期課程において、日本語学・英語学・フランス語学・ドイツ語学に関する高度な専門的知識を備え、柔軟な思考能力ならびに優れた技能を身につけた学生に対し、学位を授与する。

(3) 博士(文学)

博士課程後期課程において、前期課程で得た日本文学・英米文学・フランス文学・ドイツ文学に関する知的素養を継承しつつ、現代の高度な学問の進展に応じた研究をさらに推進し、その成果を社会に発信していく能力を身につけた学生に対し、学位を授与する。

(4) 博士(言語学)

博士課程後期課程において、前期課程で得た日本語学・英語学・フランス語学・ドイツ語学に関する知的素養を継承しつつ、現代の高度な学問の進展に応じた研究をさらに推進し、その成果を社会に発信していく能力を身につけた学生に対し、学位を授与する。

◆ CP ◆

博士課程前期課程及び後期課程のカリキュラムを通じて、以下のような教育を行う。

文学研究科では、人文科学の持つ総合性と多様性を取り込んで、学位授与に至るまで充実した研究活動が展開できるカリキュラム編成をとっている。博士課程前期課程では 3 専攻 12 領域の多彩な専門領域を設け、必修科目の研究演習に加えて資料研究・特殊講義・特殊実験・臨床実践・文献研究といった各専攻と各領域の特性を活かした選択科目を提供し、それらを体系的かつ横断的に学ぶことによって専門分野の研究能力を高めるとともに学知の広がりを目指している。博士課程後期課程ではさらなる主体的・創造的な研究能力の深化と発展に向けて、3 専攻 11 領域体制のもと、各領域とも研究演習を経て博士論文作成演習に進むカリキュラムを設けている。

各学位に関するそれぞれの年次毎のカリキュラムの理念は以下の通りである。

1. 文化歴史学専攻

(1) 修士(哲学)

博士課程前期課程の第 1 学年度では、大学院における学修・研究の基礎を定着させるとともに、哲学

倫理学の諸領域の研究演習、特殊講義、文献研究などの科目を通じて、関連文献の読解や哲学的思考などの能力を鍛え、当該領域の専門的な研究能力を養成する。博士課程前期課程の第 2 学年度では、第 1 学年度に引き続き、当該領域の専門的な研究能力を高めるとともに、それまでに身につけた専門知識や研究能力を十分に展開し、当該領域において、学生各自が個別に設定したテーマと目標に従い修士論文を完成させる。

(2) 修士(美学)

博士課程前期課程の第 1 学年度では、大学院における学修・研究の基礎を定着させるとともに、美学芸術学の諸領域の研究演習、特殊講義、資料研究などの科目を通じて、関連文献の読解や芸術作品の解釈などの能力を鍛え、当該領域の専門的な研究能力を養成する。博士課程前期課程の第 2 学年度では、第 1 学年度に引き続き、当該領域の専門的な研究能力を高めるとともに、それまでに身につけた専門知識や研究能力を十分に展開し、当該領域において、学生各自が個別に設定したテーマと目標に従い修士論文を完成させる。

(3) 修士(芸術学)

博士課程前期課程の第 1 学年度では、大学院における学修・研究の基礎を定着させるとともに、美学芸術学の諸領域の研究演習、特殊講義、資料研究などの科目を通じて、関連文献の読解や芸術作品の解釈などの能力を鍛え、当該領域の専門的な研究能力を養成する。博士課程前期課程の第 2 学年度では、第 1 学年度に引き続き、当該領域の専門的な研究能力を高めるとともに、それまでに身につけた専門知識や研究能力を十分に展開し、当該領域において、学生各自が個別に設定したテーマと目標に従い修士論文を完成させる。

(4) 修士(歴史学)

博士課程前期課程の第 1 学年度では、大学院における学修・研究の基礎を定着させるとともに、日本史学・アジア史学・西洋史学の諸領域の研究演習、特殊講義、文献研究、古文書学などの科目を通じて、資料・史料の読解などの能力を鍛え、当該領域の専門的な研究能力を養成する。博士課程前期課程の第 2 学年度では、第 1 学年度に引き続き、当該領域の専門的な研究能力を高めるとともに、それまでに身につけた専門知識や研究能力を十分に展開し、当該領域において、学生各自が個別に設定したテーマと目標に従い修士論文を完成させる。

(5) 修士(地理学)

博士課程前期課程の第 1 学年度では、大学院における学修・研究の基礎を定着させるとともに、地理学地域文化学の諸領域の研究演習、特殊講義、文献研究などの科目を通じて、資料・史料の読解や実地調査の実践などの能力を鍛え、当該領域の専門的な研究能力を養成する。博士課程前期課程の第 2 学年度では、第 1 学年度に引き続き、当該領域の専門的な研究能力を高めるとともに、それまでに身につけた専門知識や研究能力を十分に展開し、当該領域において、学生各自が個別に設定したテーマと目標に従い修士論文を完成させる。

(6) 博士(哲学)

博士課程後期課程第 1 学年度においては、研究演習や特別研究、さらには博士課程前期課程授業科目の中から選択科目を履修することを通じて、当該領域における専門的な研究能力をさらに高める。博士課程後期課程第 2 学年度においては、第 1 学年度に引き続き、研究演習や特別研究、さらには博士課程前期課程授業科目の中から選択科目を履修することを通じて、当該領域における専門的な研究能力をさらに高める。博士課程後期課程第 3 学年度においては、第 2 学年度に引き続き、研究演習や特別研究、さらには博士課程前期課程授業科目の中から選択科目を履修することを通じて、当該領域における専門的な研究能力をさらに高めるとともに、博士論文作成演習を通じて博士論文執筆に向けた準備を進め、それまでに身につけた専門知識や研究能力を十分に展開し、当該領域において、学生各自が個別に設定したテーマと目標に従い博士論文を完成させる。

(7) 博士(美学)

博士課程後期課程第 1 学年度においては、研究演習や特別研究、さらには博士課程前期課程授業科目の中から選択科目を履修することを通じて、当該領域における専門的な研究能力をさらに高める。博士課程後期課程第 2 学年度においては、第 1 学年度に引き続き、研究演習や特別研究、さらには

博士課程前期課程授業科目の中から選択科目を履修することを通じて、当該領域における専門的な研究能力をさらに高める。博士課程後期課程第 3 学年度においては、第 2 学年度に引き続き、研究演習や特別研究、さらには博士課程前期課程授業科目の中から選択科目を履修することを通じて、当該領域における専門的な研究能力をさらに高めるとともに、博士論文作成演習を通じて博士論文執筆に向けた準備を進め、それまでに身につけた専門知識や研究能力を十分に展開し、当該領域において、学生各自が個別に設定したテーマと目標に従い博士論文を完成させる。

(8) 博士(芸術学)

博士課程後期課程第 1 学年度においては、研究演習や特別研究、さらには博士課程前期課程授業科目の中から選択科目を履修することを通じて、当該領域における専門的な研究能力をさらに高める。博士課程後期課程第 2 学年度においては、第 1 学年度に引き続き、研究演習や特別研究、さらには博士課程前期課程授業科目の中から選択科目を履修することを通じて、当該領域における専門的な研究能力をさらに高める。博士課程後期課程第 3 学年度においては、第 2 学年度に引き続き、研究演習や特別研究、さらには博士課程前期課程授業科目の中から選択科目を履修することを通じて、当該領域における専門的な研究能力をさらに高めるとともに、博士論文作成演習を通じて博士論文執筆に向けた準備を進め、それまでに身につけた専門知識や研究能力を十分に展開し、当該領域において、学生各自が個別に設定したテーマと目標に従い博士論文を完成させる。

(9) 博士(歴史学)

博士課程後期課程第 1 学年度においては、研究演習や特別研究、さらには博士課程前期課程授業科目の中から選択科目を履修することを通じて、当該領域における専門的な研究能力をさらに高める。博士課程後期課程第 2 学年度においては、第 1 学年度に引き続き、研究演習や特別研究、さらには博士課程前期課程授業科目の中から選択科目を履修することを通じて、当該領域における専門的な研究能力をさらに高める。博士課程後期課程第 3 学年度においては、第 2 学年度に引き続き、研究演習や特別研究、さらには博士課程前期課程授業科目の中から選択科目を履修することを通じて、当該領域における専門的な研究能力をさらに高めるとともに、博士論文作成演習を通じて博士論文執筆に向けた準備を進め、それまでに身につけた専門知識や研究能力を十分に展開し、当該領域において、学生各自が個別に設定したテーマと目標に従い博士論文を完成させる。

(10) 博士(地理学)

博士課程後期課程第 1 学年度においては、研究演習や特別研究、さらには博士課程前期課程授業科目の中から選択科目を履修することを通じて、当該領域における専門的な研究能力をさらに高める。博士課程後期課程第 2 学年度においては、第 1 学年度に引き続き、研究演習や特別研究、さらには博士課程前期課程授業科目の中から選択科目を履修することを通じて、当該領域における専門的な研究能力をさらに高める。博士課程後期課程第 3 学年度においては、第 2 学年度に引き続き、研究演習や特別研究、さらには博士課程前期課程授業科目の中から選択科目を履修することを通じて、当該領域における専門的な研究能力をさらに高めるとともに、博士論文作成演習を通じて博士論文執筆に向けた準備を進め、それまでに身につけた専門知識や研究能力を十分に展開し、当該領域において、学生各自が個別に設定したテーマと目標に従い博士論文を完成させる。

2. 総合心理学専攻

(1) 修士(心理学)

博士課程前期課程の第 1 学年度では、大学院における学修・研究の基礎を定着させるとともに、心理学の諸領域の研究演習、特殊講義、特殊研究、特殊実験、統計基礎理論、行動科学研究法、心理学実践などの科目を通じて、関連文献の読解や関連事項の実験などの能力を鍛え、当該領域の専門的な研究能力を養成する。博士課程前期課程の第 2 学年度では、第 1 学年度に引き続き、当該領域の専門的な研究能力を高めるとともに、それまでに身につけた専門知識や研究能力を十分に展開し、当該領域において、学生各自が個別に設定したテーマと目標に従い修士論文を完成させる。

(2) 修士(学校教育学)

博士課程前期課程の第 1 学年度では、大学院における学修・研究の基礎を定着させるとともに、学校

教育学の諸領域の研究演習、特殊講義などの科目を通じて、関連文献の読解などの能力を鍛え、当該領域の専門的な研究能力を養成する。博士課程前期課程の第 2 学年度では、第 1 学年度に引き続き、当該領域の専門的な研究能力を高めるとともに、それまでに身につけた専門知識や研究能力を十分に展開し、当該領域において、学生各自が個別に設定したテーマと目標に従い修士論文を完成させる。

(3) 博士(心理学)

博士課程後期課程第 1 学年度においては、研究演習や特別研究、さらには博士課程前期課程授業科目の中から選択科目を履修することを通じて、当該領域における専門的な研究能力をさらに高める。博士課程後期課程第 2 学年度においては、第 1 学年度に引き続き、研究演習や特別研究、さらには博士課程前期課程授業科目の中から選択科目を履修することを通じて、当該領域における専門的な研究能力をさらに高める。博士課程後期課程第 3 学年度においては、第 2 学年度に引き続き、研究演習や特別研究、さらには博士課程前期課程授業科目の中から選択科目を履修することを通じて、当該領域における専門的な研究能力をさらに高めるとともに、博士論文作成演習を通じて博士論文執筆に向けた準備を進め、それまでに身につけた専門知識や研究能力を十分に展開し、当該領域において、学生各自が個別に設定したテーマと目標に従い博士論文を完成させる。

(4) 博士(教育心理学)

博士課程後期課程第 1 学年度においては、研究演習や特別研究、さらには博士課程前期課程授業科目の中から選択科目を履修することを通じて、当該領域における専門的な研究能力をさらに高める。博士課程後期課程第 2 学年度においては、第 1 学年度に引き続き、研究演習や特別研究、さらには博士課程前期課程授業科目の中から選択科目を履修することを通じて、当該領域における専門的な研究能力をさらに高める。博士課程後期課程第 3 学年度においては、第 2 学年度に引き続き、研究演習や特別研究、さらには博士課程前期課程授業科目の中から選択科目を履修することを通じて、当該領域における専門的な研究能力をさらに高めるとともに、博士論文作成演習を通じて博士論文執筆に向けた準備を進め、それまでに身につけた専門知識や研究能力を十分に展開し、当該領域において、学生各自が個別に設定したテーマと目標に従い博士論文を完成させる。

3. 文学言語学専攻

(1) 修士(文学)

博士課程前期課程の第 1 学年度では、大学院における学修・研究の基礎を定着させるとともに、日本文学・英米文学・フランス文学・ドイツ文学の諸領域の研究演習、特殊講義、文献研究などの科目を通じて、関連文献の読解や文学テキストの解釈などの能力を鍛え、当該領域の専門的な研究能力を養成する。博士課程前期課程の第 2 学年度では、第 1 学年度に引き続き、当該領域の専門的な研究能力を高めるとともに、それまでに身につけた専門知識や研究能力を十分に展開し、当該領域において、学生各自が個別に設定したテーマと目標に従い修士論文を完成させる。

(2) 修士(言語学)

博士課程前期課程の第 1 学年度では、大学院における学修・研究の基礎を定着させるとともに、日本語学・英語学・フランス語学・ドイツ語学の諸領域の研究演習、特殊講義、文献研究などの科目を通じて、関連文献の読解や言語事象の分析などの能力を鍛え、当該領域の専門的な研究能力を養成する。博士課程前期課程の第 2 学年度では、第 1 学年度に引き続き、当該領域の専門的な研究能力を高めるとともに、それまでに身につけた専門知識や研究能力を十分に展開し、当該領域において、学生各自が個別に設定したテーマと目標に従い修士論文を完成させる。

(3) 博士(文学)

博士課程後期課程第 1 学年度においては、研究演習や特別研究、さらには博士課程前期課程授業科目の中から選択科目を履修することを通じて、当該領域における専門的な研究能力をさらに高める。博士課程後期課程第 2 学年度においては、第 1 学年度に引き続き、研究演習や特別研究、さらには博士課程前期課程授業科目の中から選択科目を履修することを通じて、当該領域における専門的な研究能力をさらに高める。博士課程後期課程第 3 学年度においては、第 2 学年度に引き続き、研究

演習や特別研究、さらには博士課程前期課程授業科目の中から選択科目を履修することを通じて、当該領域における専門的な研究能力をさらに高めるとともに、博士論文作成演習を通じて博士論文執筆に向けた準備を進め、それまでに身につけた専門知識や研究能力を十分に展開し、当該領域において、学生各自が個別に設定したテーマと目標に従い博士論文を完成させる。

(4) 博士(言語学)

博士課程後期課程第 1 学年度においては、研究演習や特別研究、さらには博士課程前期課程授業科目の中から選択科目を履修することを通じて、当該領域における専門的な研究能力をさらに高める。博士課程後期課程第 2 学年度においては、第 1 学年度に引き続き、研究演習や特別研究、さらには博士課程前期課程授業科目の中から選択科目を履修することを通じて、当該領域における専門的な研究能力をさらに高める。博士課程後期課程第 3 学年度においては、第 2 学年度に引き続き、研究演習や特別研究、さらには博士課程前期課程授業科目の中から選択科目を履修することを通じて、当該領域における専門的な研究能力をさらに高めるとともに、博士論文作成演習を通じて博士論文執筆に向けた準備を進め、それまでに身につけた専門知識や研究能力を十分に展開し、当該領域において、学生各自が個別に設定したテーマと目標に従い博士論文を完成させる。

【社会学研究科】

◆ DP ◆

博士課程前期課程

1. [態度・関心] 社会学、社会心理学、文化人類学・民俗学という専門性の見地から、さまざまな社会現象や社会問題を説明・理解しようとする強い意志と態度を身につけ、専門性にもとづいて、幅広く社会に貢献しようとする強い意欲を身につけている。
2. [知識・思考] 社会学、社会心理学、文化人類学・民俗学という専門性の見地から、現実社会を分析していくための専門的知識と専門的思考力、社会調査についての専門的知識を身につけるとともに、高度に専門分化した知識をより大きな文脈のなかに位置づけ、関連づけるために必要な幅広い知識と柔軟な思考力を身につけている。
3. [技能・表現] ジェネリック・スキル（ICT を用いた情報収集・分析・評価の能力、論理的・批判的な思考能力、数量的スキル、表現・伝達能力など）を、社会学、社会心理学、文化人類学・民俗学という専門性のレベルで活用する力を身につけているとともに、同様のレベルで、日本語および一つ以上の外国語によってコミュニケーションするためのスキルを身につけている。さらに、社会調査についての専門的な技能を身につけている。
4. [統合的能力] 上記の1～3の学習成果を総合的に活用して、適切な研究テーマと課題を自ら設定し、先行研究にもとづいて、論理的・実証的な分析を行い、オリジナルな仮説的結論を提示する能力と技能を身につけている。

博士課程後期課程

1. [態度・関心] 自らの専門的研究を発展させ、社会学、社会心理学、文化人類学・民俗学の研究に従事していくとする強い意志と態度を身につけ、専門的研究を通して社会に貢献しようとする強い意欲を身につけている。
2. [知識・思考] 自らの専門的研究を発展させていくために必要な専門的知識と専門的思考力を身につけるとともに、自らの専門的研究を他の関連する専門的研究の文脈のなかに位置づけ、関連づけるために必要な幅広い知識と柔軟な思考力を身につけている。
3. [技能・表現] ジェネリック・スキルを、自らの専門的研究を発展させるという見地から活用する力を身につけているとともに、同様の見地から、日本語および一つ以上の外国語によってコミュニケーションするためのスキルを身につけている。
4. [統合的能力] 上記の1～3の学習成果を総合的に活用して、当該の専門分野における研究を確実に前進させる、優れた研究業績を発表する能力と技能を身につけている。

◆ CP ◆

社会学研究科は、学位授与の方針（ディプロマポリシー）にもとづいて、以下の科目を体系的に配置する。

・「研究演習」（指導教員・副指導教員）

社会学、社会心理学、文化人類学・民俗学という専門性にもとづいた態度・関心、知識・思考を身につけるとともに、適切な研究テーマと課題を自ら設定し、論理的・実証的な分析を行い、オリジナルな仮説的結論を提示する能力と技能を身につけるための科目（DP-1、2、4）。

・理論講義

特定の領域・方法に偏ることなく社会学、社会心理学、文化人類学・民俗学における発想の基礎を幅広く習得し、柔軟な思考力を身につけるための科目（DP-2）。

・特殊講義／特殊研究

より専門的で、領域や方法に焦点をあてた知識や技能を身につけるための科目（DP-2、3）

・社会調査関連科目

社会調査に関する知識・技能・分析方法を身につけるための科目（DP-2、3）

・文献講読／文献研究

社会学、社会心理学、文化人類学・民俗学に関する英語並びに諸言語の文献を読みこなす能力を身につけるための科目

・「修士論文作成合同演習A・B」(研究科委員長、副委員長、任期制教員)

修士論文完成を研究科全体で支援するため、着実な文献渉猟に基づく先行研究の展望、データや分析結果の提示方法など学術論文執筆の基礎力を身につけるための科目(DP-4)

・「博士論文作成合同演習A・B」(研究科委員長、副委員長、任期制教員)

博士論文完成を研究科全体で支援するため、専門領域外の読み手・聞き手にも説得力ある議論を展開することを目標に、独創的な理論構築と緻密な方法論の提示など学術論文執筆の応用力を身につけるための科目(DP-4)

博士課程前期課程の実施方針

- ・指導教員・副指導教員の「社会学研究演習A・B」または「社会心理学研究演習A・B」または「文化人類学・民俗学研究演習A・B」を1年次・2年次ともに必修科目とする。これにより、専任教員2名の指導の下、適切な研究テーマと課題を設定し、修士論文の準備・作成を進める。
- ・「社会学文献講読(英)A・B」または「社会心理学文献講読(英)A・B」または「文化人類学・民俗学文献講読(英)A・B」を必修科目とし、主に1年次に履修する。これにより、各分野の英語論文を自分の力で読解するためのスキルを修得する。
- ・「社会学理論講義A・B」または「社会心理学講義A・B」または「文化人類学・民俗学講義A・B」を選択必修科目とし、主に1年次に履修する。これにより、特定の方法・領域に偏ることなく社会学、社会心理学、文化人類学・民俗学の発想の基礎を修得する。
- ・「修士論文作成合同演習A・B」において、1年次(聴講)では研究テーマ・研究計画の報告を、2年次(履修)では修士論文の進捗状況についての報告を行い、研究科教員、大学院生、研究員からのコメントを受けて、修士論文の作成を進める。本演習での報告機会を修士論文作成のためのマイルストーンとするとともに、他分野・他学年の院生の報告に接することで研究に必要な発想や技法を修得する。
- ・これ以外に、「その他指導教員が履修を指導する科目」として、学生の研究関心に従って、上記のように配置された研究科開講科目を自由に組み合わせて履修することができ、オリジナルな研究の進展に資することとする。

博士課程後期課程の実施方針

- ・指導教員の「社会学研究演習A・B」または「社会心理学研究演習A・B」または「文化人類学・民俗学研究演習A・B」を1・2・3年次ともに必修科目とする。これにより、専任教員2名の指導の下、適切な研究テーマと課題を設定し、博士論文の準備・作成を進める(後期課程においては副指導教員の研究演習は選択科目とする)。
- ・「社会学文献研究(英)A・B」または「社会心理学文献研究(英)A・B」または「文化人類学・民俗学文献研究(英)A・B」を必修科目とする。これにより、より各分野の英語論文を自分の力で読解するためのスキルを修得する。
- ・「博士論文作成合同演習A・B」において、博士論文の進捗状況について報告を行う。1年次(聴講)では博士論文の構想を、2年次(履修)では博士論文全体の構想と現在準備中の論文・学会発表などについての報告を行う。これにより、2年次までに「博士論文キャンディデート」の授与をめざす。
3年次(聴講)では博士論文全体の構想と現在準備中の論文・学会発表などについての報告、および博士論文の概要についての報告を行い、博士論文の完成・提出をめざす。このように、本演習での報告機会を博士論文作成のためのマイルストーンとするとともに、研究科教員、大学院生、研究員からのコメント、他分野・他学年の院生の報告に接することで、博士論文に求められる説得力や応用力を修得する。
- ・これ以外に、「その他指導教員が履修を指導する科目」として、学生の研究関心に従って、上記のように配置された研究科開講科目を自由に組み合わせて履修することができ、高度な専門性を踏まえたオリジナルな研

究の進展に資することとする。

【法学研究科】

◆ DP ◆

関西学院大学大学院法学研究科は、市民社会における自由な精神に則り、広く深い社会的視野と教養、社会貢献（奉仕）の精神の視点を重視するという本研究科の「ソーシャル・アプローチ」の理念に基づき、法学・政治学の分野において下記の能力を習得したと認められる者に学位を授与する。

(1) 修士学位

修士学位は、本学研究科に所定の年限在学し、所定の単位を修得したうえで、広い視野に立ち、法学・政治学の学問分野について精深な学識と精深な研究を行う能力を有すると認められる者に授与する。

(2) 博士学位

<政治学専攻>

博士学位は、本研究科に所定の年限在学し、独創的な研究成果を挙げ、政治学の分野について研究者として自立して研究活動を行うに必要な高度の研究能力およびその基礎となる豊かな学識を有すると認められる者に授与する。

<基礎法学専攻>

博士学位は、本研究科に所定の年限在学し、独創的な研究成果を挙げ、基礎法学・公法学の分野について研究者として自立して研究活動を行うに必要な高度の研究能力およびその基礎となる豊かな学識を有すると認められる者に授与する。

<民刑事法学専攻>

博士学位は、本研究科に所定の年限在学し、独創的な研究成果を挙げ、民事法学・刑事法学の分野について研究者として自立して研究活動を行うに必要な高度の研究能力およびその基礎となる豊かな学識を有すると認められる者に授与する。

◆ CP ◆

関西学院大学大学院法学研究科は、本研究科学生がディプロマ・ポリシーに明記されている研究能力を習得するために、下記の重点項目を含むカリキュラムを編成し、これを実施する。

(1) 前期課程

- ① 法学・政治学分野の専門性の高い知識を各プログラムごとに系統的に習得する科目。
- ② 研究活動に必要な外国語文献を研究する科目。
- ③ 以上の科目により習得した知識や能力を活用して課題を発見し、問題解決を考察すると共に、修士論文作成のためのテーマ設定・論文構成等について指導を受ける演習科目。

(2) 後期課程

<政治学専攻>

- ① 高度の政治学研究を行うための専門的知識および、その基礎となる学識を系統的に習得する科目。
- ② 研究活動に必要な外国語文献を研究する科目。
- ③ 以上の科目により習得した知識や能力を活用して独創的な研究成果である博士論文を作成すると共に、自立した研究活動を行うに必要な高度の研究能力を身につけるための指導を受ける演習科目。

<基礎法学専攻>

- ① 高度の基礎法学・公法学研究を行うための専門的知識および、その基礎となる学識を系統的に習得する科目。
- ② 研究活動に必要な外国語文献を研究する科目。
- ③ 以上の科目により習得した知識や能力を活用して独創的な研究成果である博士論文を作成すると共に、自立した研究活動を行うに必要な高度の研究能力を身につけるための指導を受ける演習科目。

<民刑事法学専攻>

- ① 高度の民事法学・刑事法学研究を行うための専門的知識および、その基礎となる学識を系統的に習得する科目。
- ② 研究活動に必要な外国語文献を研究する科目。
- ③ 以上の科目により習得した知識や能力を活用して独創的な研究成果である博士論文を作成すると共に、自立した研究活動を行うに必要な高度の研究能力を身につけるための指導を受ける演習科目。

【経済学研究科】

◆ DP ◆

経済学研究科は、「“Mastery for Service”を体現する世界市民」を育成するために定めた「Kwansei コンピテンシー」を規範として据え、経済学の高等教育機関として研究者を養成するとともに、研究機関として経済学の理論及び応用を研究することにより経済学の進展に寄与することを理念としています。この理念の下、経済学研究科は、博士課程前期課程教育を通じて所定の基準を満たし、修士論文又は課題研究レポートの審査に合格した学生に修士学位（経済学）を授与します。また、博士課程後期課程教育を通じて学術的に最高の基準を満たし、学位申請論文の厳格な審査に合格した学生に博士学位（経済学）を授与します。修士学位及び博士学位の授与には、生涯、最先端の研究者として、あるいは高度専門職業人として社会に貢献してもらいたいという経済学研究科としての未来への希望が込められており、それを実現するために、経済学研究科では「Kwansei コンピテンシー」を念頭に置いて、修得すべき知識・能力・資質を以下のように定めています。

（知識／Knowledge）

- 幅広い知識・教養と深い専門性
- 経済学的方法の中で理論分析・実証分析・歴史分析のうち、一つ以上の最先端の方法

（能力／Skills）

- 経済・社会に絶え間なく生起する諸問題に関心を持ち、それら諸問題を経済学に関わる「研究の問い」として昇華させ、打ち立てる能力
- 自身で打ち立てた「研究の問い」に対峙して、常に深く思考することにより問題の本質を捉え、明確な分析を行う能力
- 得られた分析結果を、経済学的方法にふさわしい文章・数式・図表によって表現し、研究論文にまとめ上げる能力

（資質／Quality of Character）

- 経済学研究の過程において直面するあらゆる困難を乗り越え、粘り強く問題を解決していこうとする姿勢
- 自身の分析に対する他者からの批判を謙虚に受け入れ、考えられうる最高の研究成果を得ようとする姿勢

◆ CP ◆

経済学研究科では、別掲されている理念・目的・教育目標を実現するために、以下の方針に基づいてカリキュラムを構成しています。

【博士課程前期課程】

博士課程前期課程では、学士課程で学んだ経済学の知識を発展させ、より高度な専門知識と分析能力を習得し、質の高い修士論文の作成と学位取得を目標とします。

将来、大学や研究機関等での研究者になることをめざしている大学院生に対しては、そのために必要な高度の資質と能力を養ってもらうため、専門分野を横断して身につけておくべき科目として大学院基礎科目を設定し、その全部または一部の履修を義務づけています。

研究者志望の大学院生、それ以外の大学院生とともに、これらの大学院基礎科目を前期課程での学習の共通基盤として学び、経済学専攻の大学院生としての学問的素養を高めつつ、それぞれの研究課題に沿った専門科目を履修します。専門科目については、大学院生の多様で高度な学問的欲求を満たせるように、また経済問題の複雑化に対応できるように、経済学の最先端の領域から伝統的な分野まで広範かつ体系的な科目提供を行い、そのあり方についての定期的な検討・見直しを行っています。

大学院基礎科目を含め、どのような科目の履修を行うかは、個々の大学院生の大学院進学目的とニーズ、将来の目標、適性や能力などに応じて、指導教員からの指導が行われます。修士論文の作成に際しては、第2学年の修士論文中間報告会（公開で実施）においての報告が義務づけられ、より優れた論文の完成に向け、指導教員以外のさまざまな分野の教員からの指導と助言を受ける機会が与えられています。

【博士課程後期課程】

博士課程後期課程では、国際的な水準での評価にも耐え得るような高度な課程博士論文の作成と学位取得を目標とします。

この目標を実現するために、指導教員の指導の下で研究を遂行し、科目の履修等も指導教員の指導で行われます。必要に応じて1人の大学院生に対して指導教員を中心とした研究指導グループが学位申請論文や研究論文の作成等の指導にあたる体制が用意されています。また、第1学年から第3学年までの各年度に行うべき研究報告や研究論文の作成・発表が博士学位取得プロセスのガイドラインとして示され、それに沿って順序だった研究教育指導が行われます。

学外からも研究者を招聘して行われる経済学ワークショップでの研究報告はすべての大学院生に義務づけられ、学位申請論文提出の要件の一つとなっています。

【商学研究科】

◆ DP ◆

【前期課程】

前期課程では、専門学識コースと研究職コースのそれぞれにおいて、以下の方針に基づき学位を授与する。

1. 専門学識コース

専門学識コースでは、「主分野」において以下の能力を修得した者に対し、修士の学位を授与する。

(1) 経営分野

経営の組織、戦略、管理、労務、財務、歴史などの領域において、高い分析力と深い洞察力を修得した者に対し、修士（経営学）の学位を授与する。

(2) 会計分野

財務会計、管理会計、監査、国際会計、情報会計などの領域において、高い分析力と深い洞察力を修得した者に対し、修士（会計学）の学位を授与する。

(3) マーケティング分野

マーケティング、流通、ロジスティクスなどの領域において、高い分析力と深い洞察力を修得した者に対し、修士（マーケティング）の学位を授与する。

(4) ファイナンス分野

金融論、企業金融、国際金融、金融史、保険などの領域において、高い分析力と深い洞察力を修得した者に対し、修士（ファイナンス）の学位を授与する。

(5) ビジネス情報分野

データサイエンス、ビジネス情報、国際経済、市場システム、ビジネス・イノベーションなどの領域において、高い分析力と深い洞察力を修得した者に対し、修士（ビジネス情報）の学位を授与する。

(6) 国際ビジネス分野

国際マーケティング、異文化マネジメント、国際ビジネス交渉、国際通商システム、イノベーション・エコシステムなどの領域において、高い分析力と深い洞察力を修得した者に対し、修士（国際ビジネス）の学位を授与する。

2. 研究職コース

研究職コースでは、商学に関する幅広い研究能力を修得し、博士論文作成のための研究能力の基盤を修得した者に対し、修士（商学）の学位を授与する。

【後期課程】

後期課程では、商学に関する独創的な研究を行い、博士論文を作成することを通じて、高度な研究を推進する能力を修得した者に対し、博士（商学）の学位を授与する。

◆ CP ◆

商学研究科では、「組織運営に関して高い分析力と深い洞察力を有する研究者や専門職業人」の輩出を図るという教育理念を実現するために、「経営」、「会計」、「マーケティング」、「ファイナンス」、「ビジネス情報」、「国際ビジネス」という6つの研究分野を整備し、指導教授が所属する分野（主分野）を軸として研究に取り組むカリキュラムを編成する。

【前期課程】

1. 専門学識コース

専門学識コースでは、高い分析力と深い洞察力を2年間で養うことに主眼を置き、その集大成として修士論文を位置づけている。そのため、「主分野」に特化して科目を履修し、大学院教員による講義および指導教授による演習指導を通じて、修士論文の作成に取り組むようカリキュラムを編成する。

(1) 経営分野

経営の組織、戦略、管理、労務、財務、歴史などの領域において、現象の解明の基盤となる理論と分析手法、ならびに高度な専門的学識を修得できる科目を提供する。

(2) 会計分野

財務会計、管理会計、監査、国際会計、情報会計などの領域において、現象の解明の基盤となる理論と分析手法、ならびに高度な専門的学識を修得できる科目を提供する。

(3) マーケティング分野

マーケティング、流通、ロジスティクスなどの領域において、現象の解明の基盤となる理論と分析手法、ならびに高度な専門的学識を修得できる科目を提供する。

(4) ファイナンス分野

金融論、企業金融、国際金融、金融史、保険などの領域において、現象の解明の基盤となる理論と分析手法、ならびに高度な専門的学識を修得できる科目を提供する。

(5) ビジネス情報分野

データサイエンス、ビジネス情報、国際経済、市場システム、ビジネス・イノベーションなどの領域において、現象の解明の基盤となる理論と分析手法、ならびに高度な専門的学識を修得できる科目を提供する。

(6) 国際ビジネス分野

国際マーケティング、異文化マネジメント、国際ビジネス交渉、国際通商システム、イノベーション・エコシステムなどの領域において、現象の解明の基盤となる理論および分析手法、ならびに専門的学識を修得できる科目を提供する。

2. 研究職コース

研究職コースでは、博士論文作成のための研究能力の基盤を養うことに主眼を置き、博士論文の作成に至る部分的・中間的成果として修士論文を位置づけている。そのため、「主分野」に重点を置きつつ「主分野」以外に必要なとされる分野についても科目を履修し、大学院教員による講義および指導教授による演習指導を通じて修士論文の作成に取り組むとともに、商学に関する幅広い研究能力を修得するようにカリキュラムを編成する。

なお、研究職コースでは、前期課程入学の段階から指導教授を中心とした博士論文指導委員会による研究指導と論文指導を行う。

【後期課程】

指導教授を中心とした博士論文指導委員会による研究指導と論文指導を行い、後期課程 3 年間での博士学位取得、遅くとも後期課程進学後 5 年以内の博士学位取得に取り組む体制を整えとともに、商学に関する独創的な研究能力を修得するようにカリキュラムを編成する。

【理工学研究科】

◆ DP ◆

本研究科は“Mastery for Service”を体現する世界市民をめざし、自然科学の基本原則とその応用について先端的研究を行っている。前期課程においては下記に示すように各専門分野における深い知識と研究能力を有する者に修士学位を与える。後期課程においては、下記に示すように各専門分野における幅広い知識・技能を修め、広い視点に立って独立して研究を行う能力を求める。加えて研究成果を学界や産業界等社会へ広く還元する能力を有する者に博士学位を与える。

【数理科学専攻】

(博士課程前期課程)

〈理学〉

- ・ 数学領域における基礎理論を修得している。
- ・ 数学領域において、専門的知識を必要とする課題に主体的に取り組み、解決できる。
- ・ 社会の幅広い分野において専門性の高い職業人として活躍するため、修得した数学の知識と基礎的研究能力を活用できる

〈工学〉

- ・ 数理工学領域における基礎理論を修得している。
- ・ 数理工学領域において、専門的知識を必要とする課題に主体的に取り組み、解決できる。
- ・ 社会の幅広い分野において専門性の高い職業人として活躍するため、修得した数理工学の知識と基礎的研究能力を活用できる。

(博士課程後期課程)

〈理学〉

- ・ 数学領域における高度な専門知識および研究能力を修得している。
- ・ 数学領域において、高度な専門的知識を必要とする研究課題に独立して取り組み、解決できる。
- ・ 社会の幅広い分野において技術者や研究者をはじめとした専門性の高い職業人として国際的に活躍するため、修得した高度な知識と研究能力を活用できる。

〈工学〉

- ・ 数理工学領域における高度な専門知識および研究能力を修得している。
- ・ 数理工学領域において、高度な専門的知識を必要とする研究課題に独立して取り組み、解決できる。
- ・ 社会の幅広い分野において技術者や研究者をはじめとした専門性の高い職業人として国際的に活躍するため、修得した高度な知識と研究能力を活用できる。

【物理学専攻】

(博士課程前期課程)

〈理学〉

- ・ 物理学の枢要な概念を理解し、自然現象の解析に適用できる。
- ・ 物理学の多様な専門分野における基礎的課題に対して、物理学的アプローチと論理的思考方法を駆使し、学術研究に対する高い倫理感をもって主体的に取り組み、それを解決できる。
- ・ 専門性の高い職業人として活躍できるだけの基礎研究能力と情報発信能力を有する。

〈工学〉

- ・ 物理学の枢要な概念を理解し、自然現象の解析に適用できる。
- ・ 物理学の多様な専門分野における応用的課題に対して、物理学的アプローチと論理的思考方法を駆使し、学術研究に対する高い倫理感をもって主体的に取り組み、それを解決できる。
- ・ 専門性の高い職業人として活躍できるだけの応用研究能力と情報発信能力を有する。

〈国際自然科学〉

- ・ 物理学分野の研究を行うために十分な知識と深い理解力を身につけている。
- ・ 国際性豊かな職業人として活躍するための英語運用能力を身につけ、研究の成果を英語で公表できる。

- ・物理学分野の専門的知識を必要とする課題に主体的に取り組み、解決できる。

(博士課程後期課程)

〈理学〉

- ・物理学に関する深い見識に基づき、新たな基礎的・根本的課題を発見する能力を有する。
- ・物理学の多様な分野における高度で専門的な基礎研究課題に対して、学術研究に対する高い倫理感をもって自立的に取り組み、それを解決できる。
- ・技術者や研究者をはじめとして専門性の高い職業人として国際的に活躍するために必要な創造力、高度な基礎研究能力、情報発信能力を有する。

〈工学〉

- ・物理学に関する深い見識に基づき、新たな応用的課題を発見する能力を有する。
- ・物理学の多様な分野における高度で専門的な応用研究課題に対して、学術研究に対する高い倫理感をもって自立的に取り組み、それを解決できる
- ・技術者や研究者をはじめとして専門性の高い職業人として国際的に活躍するために必要な創造力、高度な応用研究能力、情報発信能力を有する。

【先進エネルギーナノ工学専攻】

(博士課程前期課程)

〈理学〉

- ・エネルギー科学・工学分野における専門的な知識を修得し、エネルギーに関する理学的・基盤的課題について解決に導くための方法を身につけている。
- ・エネルギーに関する様々な理学的問題に対して、新たな視点から主体的に研究に取り組む能力を有する。
- ・高度専門職業人として必要な理学的研究能力を持つとともにその成果を社会に還元するための情報発信能力を有する。

〈工学〉

- ・エネルギー科学・工学分野における専門的な知識を修得し、エネルギーに関する工学的・応用的課題について解決に導くための方法を身につけている。
- ・エネルギーに関する様々な工学的問題に対して、新たな視点から主体的に研究に取り組む能力を有する。
- ・高度専門職業人として必要な工学的研究能力を持つとともにその成果を社会に還元するための情報発信能力を有する。

〈国際自然科学〉

- ・エネルギーに関連したナノ材料を中心として、自然科学の研究を行うために十分な知識と深い理解力を身につけている。
- ・国際性豊かな職業人として活躍するための英語運用能力を身につけ、研究の成果を英語で公表できる。
- ・専門的知識を必要とする課題に主体的に取り組み、解決できる。

(博士課程後期課程)

〈理学〉

- ・エネルギー科学・工学分野の研究者として、自立して理学的・根源的な研究を行うことができる能力を身につけている。
- ・エネルギーに関する諸問題について自ら研究テーマを設定し、その理学的課題について新たな点から研究を行い、新規な知見を得ることにより問題の解決に結びつけることができる能力を有する。
- ・自身の専門とする理学分野を深く研鑽し、その結果を論文や学会等を通して公表することにより、国際的に活躍することができる。

〈工学〉

- ・ エネルギー科学・工学分野の研究者として、自立して工学的・応用的な研究を行うことができる能力を身につけている。
- ・ エネルギーに関する諸問題について自ら研究テーマを設定し、その工学的課題について新たな点から研究を行い、新規な知見を得ることにより問題の解決に結びつけることができる能力を有する。
- ・ 自身の専門とする工学分野を深く研鑽し、その結果を論文や学会等を通して公表することにより、国際的に活躍することができる。

【化学専攻】

(博士課程前期課程)

〈理学〉

- ・ 化学における専門的知識を必要とする基礎的な課題に主体的に取り組み、解決しようとする際に要求される基礎概念を理解し、基本的な手法を修得している。
- ・ 選択した化学における基礎的な研究分野においてオリジナルな研究論文を書くのに必要な知識と研究手法を修得している。
- ・ 選択したテーマについての化学における基礎的な研究を行い、それを学位論文として纏める事が出来る。

〈工学〉

- ・ 化学における専門的知識を必要とする応用的な課題に主体的に取り組み、解決しようとする際に要求される基礎概念を理解し、基本的な手法を修得している。
- ・ 選択した化学における応用的な研究分野においてオリジナルな研究論文を書くのに必要な知識と研究手法を修得している。
- ・ 選択したテーマについての化学における応用的な研究を行い、それを学位論文として纏める事が出来る。

〈国際自然科学〉

- ・ 化学分野の研究を行うために十分な知識と深い理解力を身につけている。
- ・ 国際性豊かな職業人として活躍するための英語運用能力を身につけ、研究の成果を英語で公表できる。
- ・ 化学分野の専門的知識を必要とする課題に主体的に取り組み、解決できる。

(博士課程後期課程)

〈理学〉

- ・ 化学の基礎的な分野における自立した研究者として必要な基本的な能力を身につけている。
- ・ 選択したテーマについて各自の発想に基づいて化学における基礎的な研究を遂行し、自らの力で学術的な新知見を得、それを学位論文として纏めるというプロセスを経験している。
- ・ 化学の一つの専門分野を深く研鑽することにより修得した、科学的思考とその精神を生かして国際的に活躍できる。

〈工学〉

- ・ 化学の応用的な分野における自立した研究者として必要な基本的な能力を身につけている。
- ・ 選択したテーマについて各自の発想に基づいて化学における応用的な研究を遂行し、自らの力で学術的な新知見を得、それを学位論文として纏めるというプロセスを経験している。
- ・ 化学の一つの専門分野を深く研鑽することにより修得した、科学的思考とその精神を生かして国際的に活躍できる。

【環境・応用化学専攻】

(博士課程前期課程)

〈理学〉

- ・ 環境と応用化学に関する専門的な知識を修得し、地球環境に関する諸問題について応用化学的アプローチから基礎研究に主体的に取り組み、解決に導くための方法を身につけている。
- ・ 地球環境に関する様々な問題に対して、主体的に基礎研究に取り組む能力を有する。
- ・ 高度専門職業人として必要な基礎研究能力を持つとともにその成果を社会に還元するための情報発信能力を有する。

〈工学〉

- ・ 環境と応用化学に関する専門的な知識を修得し、地球環境に関する諸問題について応用化学的アプローチから応用研究に主体的に取り組み、解決に導くための方法を身につけている。
- ・ 地球環境に関する様々な問題に対して、主体的に応用研究に取り組む能力を有する。
- ・ 高度専門職業人として必要な応用研究能力を持つとともにその成果を社会に還元するための情報発信能力を有する。

〈国際自然科学〉

- ・ 環境・応用化学分野の研究を行うために十分な知識と深い理解力を身につけている。
- ・ 国際性豊かな職業人として活躍するための英語運用能力を身につけ、研究の成果を英語で公表できる。
- ・ 環境・応用化学分野の専門的知識を必要とする課題に主体的に取り組み、解決できる。

(博士課程後期課程)

〈理学〉

- ・ 環境と応用化学に関する研究者として、自立して基礎研究を行うことができる能力を身につけている。
- ・ 地球環境に関する諸問題について自ら研究テーマを設定し、その課題について応用化学的観点から基礎研究を行い、新規な知見を得ることにより問題の解決に結びつけることができる能力を有する。
- ・ 自身の専門とする基礎研究分野を深く研鑽し、その結果を論文や学会等を通して公表することにより、国際的に活躍することができる。

〈工学〉

- ・ 環境と応用化学に関する研究者として、自立して応用研究を行うことができる能力を身につけている。
- ・ 地球環境に関する諸問題について自ら研究テーマを設定し、その課題について応用化学的観点から応用研究を行い、新規な知見を得ることにより問題の解決に結びつけることができる能力を有する。
- ・ 自身の専門とする応用研究分野を深く研鑽し、その結果を論文や学会等を通して公表することにより、国際的に活躍することができる。

【生命科学専攻】

(博士課程前期課程)

〈理学〉

- ・ 生命科学分野の基礎研究を行うために十分な知識と深い理解力を身につけている。
- ・ 専門的知識を必要とする課題に主体的に取り組み、解決できる。
- ・ 国際性豊かな職業人として活躍するため基礎研究の成果を英語で公表できる。

〈工学〉

- ・ 生命科学分野の応用研究を行うために十分な知識と深い理解力を身につけている。
- ・ 専門的知識を必要とする課題に主体的に取り組み、解決できる。
- ・ 国際性豊かな職業人として活躍するため応用研究の成果を英語で公表できる。

〈国際自然科学〉

- ・ 生命科学分野の研究を行うために十分な知識と深い理解力を身につけている。
- ・ 国際性豊かな職業人として活躍するための英語運用能力を身につけ、研究の成果を英語で公表できる。

る。

- ・ 生命科学分野の専門的知識を必要とする課題に主体的に取り組み、解決できる。

(博士課程後期課程)

〈理学〉

- ・ 基礎研究の成果を国際誌に論文発表する能力を身につけている。
- ・ 幅広い生命科学領域において、高度な専門的知識を必要とする基礎的な研究課題に独立して取り組み、解決できる。
- ・ 国際的な技術者や研究者をはじめとした専門性の高い職業人として活躍するための問題解決能力を身につけている。

〈工学〉

- ・ 応用研究の成果を国際誌に論文を発表する能力を身につけている。
- ・ 幅広い生命科学領域において、高度な専門的知識を必要とする応用研究の課題に独立して取り組み、解決できる。
- ・ 国際的な技術者や研究者をはじめとした専門性の高い職業人として活躍するための問題解決能力を身につけている。

【生命医化学専攻】

(博士課程前期課程)

〈理学〉

- ・ 基礎医学系の専門的知識を必要とする課題に主体的に取り組み、その解決に要求される生化学や分子生物学などの知識や技能を習得している。
- ・ 基礎医学系の様々な問題に対して、新たな視点から主体的に研究に取り組む能力を有する。
- ・ 高度専門職業人として必要な研究能力を持つとともにその成果を社会に還元するための情報発信能力を有する。

〈工学〉

- ・ 応用医学系の専門的知識を必要とする課題に主体的に取り組み、その解決に要求される医工学系の知識や技能を習得している。
- ・ 応用医学系の様々な問題に対して、新たな視点から主体的に研究に取り組む能力を有する。
- ・ 高度専門職業人として必要な研究能力を持つとともにその成果を社会に還元するための情報発信能力を有する。

〈国際自然科学〉

- ・ 生命医化学分野の研究を行うために十分な知識と深い理解力を身につけている。
- ・ 国際性豊かな職業人として活躍するための英語運用能力を身につけ、研究の成果を英語で公表できる。
- ・ 生命医化学分野の専門的知識を必要とする課題に主体的に取り組み、解決できる。

(博士課程後期課程)

〈理学〉

- ・ 基礎医学系分野の研究者として、自立して研究を行うことができる能力を身に付けている。
- ・ 少子高齢化社会を健康面から支えるため、自ら研究テーマを設定し、新規な知見を得ることにより基礎医学系分野のライフイノベーションに寄与することができる能力を有する。
- ・ 自身の専門とする分野を深く研鑽し、その結果を論文や学会等を通して公表することにより、国際的に活躍することができる。

〈工学〉

- ・ 応用医学系分野の研究者として、自立して研究を行うことができる能力を身に付けている。

- ・ 少子高齢化社会を健康面から支えるため、自ら研究テーマを設定し、新たな工学技術を開発することにより応用医学系分野のライフイノベーションに寄与することができる能力を有する。
- ・ 自身の専門とする分野を深く研鑽し、その結果を論文や学会等を通して公表することにより、国際的に活躍することができる。

【情報科学専攻】

(博士課程前期課程)

〈理学〉

- ・ 健全な情報化社会の構築に貢献するために、情報科学の理論に関する幅広い知識と深い理解力を身につけている。
- ・ 幅広い情報科学領域において、専門的知識を必要とする理論的課題に主体的に取り組み、解決できる。
- ・ 修得した情報科学の理論に関する高度な知識と基礎的研究能力を活用し、専門性の高い職業人として活躍できる。

〈工学〉

- ・ 健全な情報化社会の構築に貢献するために、情報科学の技術に関する幅広い知識と深い理解力を身につけている。
- ・ 幅広い情報科学領域において、専門的知識を必要とする技術的課題に主体的に取り組み、解決できる。
- ・ 修得した情報科学の技術に関する高度な知識と基礎的研究能力を活用し、専門性の高い職業人として活躍できる。

(博士課程後期課程)

〈理学〉

- ・ 健全な情報化社会の構築をリードするために、情報科学の理論に関する幅広い知識と深い理解力を身につけている。
- ・ 幅広い情報科学領域において、高度な専門的知識を必要とする理論的研究課題に独立して取り組み、解決できる。
- ・ 修得した問題解決能力と情報科学の理論に関する高度に専門的な知識・思考力・理解力を活用して、技術者や研究者をはじめとした専門性の高い職業人として国際的に活躍できる。

〈工学〉

- ・ 健全な情報化社会の構築をリードするために、情報科学の技術に関する幅広い知識と深い理解力を身につけている。
- ・ 幅広い情報科学領域において、高度な専門的知識を必要とする技術的研究課題に独立して取り組み、解決できる。
- ・ 修得した問題解決能力と情報科学の技術に関する高度に専門的な知識・思考力・理解力を活用して、技術者や研究者をはじめとした専門性の高い職業人として国際的に活躍できる。

【人間システム工学専攻】

(博士課程前期課程)

〈理学〉

- ・ 人を中心とした新しいシステムを創出するための人間システム工学の理論に関する幅広い知識を修得し、深い理解力を身につけている。
- ・ 人間システム工学領域において、専門的知識を必要とする理論的課題に主体的に取り組み、柔軟に解決できる。
- ・ 修得した人間システム工学の理論に関する高度な知識と基礎的研究能力を活用し、専門性の高い職業人として活躍できる。

〈工学〉

- ・ 人を中心とした新しいシステムを創出するための人間システム工学の技術に関する幅広い知識を修得し、深い理解力を身につけている。
- ・ 人間システム工学領域において、専門的知識を必要とする技術的課題に主体的に取り組み、柔軟に解決できる。
- ・ 修得した人間システム工学の技術に関する高度な知識と基礎的研究能力を活用し、専門性の高い職業人として活躍できる。

(博士課程後期課程)

〈理学〉

- ・ 人を中心とした新しいシステムを創出し、新たな価値や産業を確立するための人間システム工学の理論に関する高度な専門知識を幅広く修得し、専門的な思考力・理解力を身につけている。
- ・ 人間システム工学領域において、高度な専門的知識を必要とする理論的研究課題に独立して取り組み、柔軟に解決できる。
- ・ 修得した問題解決能力と人間システム工学の理論に関する高度に専門的な知識・思考力・理解力を活用して、技術者や研究者をはじめとした専門性の高い職業人として国際的に活躍できる。

〈工学〉

- ・ 人を中心とした新しいシステムを創出し、新たな価値や産業を確立するための人間システム工学の技術に関する高度な専門知識を幅広く修得し、専門的な思考力・理解力を身につけている。
- ・ 人間システム工学領域において、高度な専門的知識を必要とする技術的研究課題に独立して取り組み、柔軟に解決できる。
- ・ 修得した問題解決能力と人間システム工学の技術に関する高度に専門的な知識・思考力・理解力を活用して、技術者や研究者をはじめとした専門性の高い職業人として国際的に活躍できる。

◆ CP ◆

理工学研究科ディプロマ・ポリシーに基づき、必修科目と選択科目から構成される授業科目群を配置する。

<博士課程前期課程>

【数理学専攻】

〈理学〉

- ・ 研究室における指導をカリキュラムの核とする。指導を通じて、自然科学および社会科学への応用までを目指した数学の基本理論や知識を修得させるため、数理学基礎研究 12 単位を必修科目として配置する。また、文献演習 4 単位を必修科目として配置し、学術論文の読み方、専門情報の収集法、学術雑誌の投稿論文の書き方等についての指導を行う。これらに加え、数学分野における幅広い知識ならびに最新の研究についての知識の修得のために、相当数の講義科目を配置する。

〈工学〉

- ・ 研究室における指導をカリキュラムの核とする。指導を通じて、自然科学および社会科学への応用までを目指した数理工学の基本理論や知識を修得させるため、数理学基礎研究 12 単位を必修科目として配置する。また、文献演習 4 単位を必修科目として配置し、学術論文の読み方、専門情報の収集法、学術雑誌の投稿論文の書き方等についての指導を行う。これらに加え、数理工学分野における幅広い知識ならびに最新の研究についての知識の修得のために、相当数の講義科目を配置する。

【物理学専攻】

〈理学〉

- ・ 研究室における指導をカリキュラムの核とする。先端的な基礎研究に取り組むことを通して、現代物理学の枢要な概念を理解させ、自然現象への物理学的アプローチ、論理的思考方法、並びに実践的な基礎研究能力を修得させるため、特別実験及び演習 12 単位を必修科目として配置する。また、文献

演習 4 単位を必修科目として配置し、学術論文の読み方、専門情報の収集法、学術雑誌への投稿論文の書き方等について指導を行う。これらに加え、物理学の多様な分野に関する専門的知識を修得させるため、相当数の講義科目を配置する。

〈工学〉

- ・ 研究室における指導をカリキュラムの核とする。先端的な応用研究に取り組むことを通して、現代物理学の枢要な概念を理解させ、自然現象への物理学的アプローチ、論理的思考方法、並びに実践的な応用研究能力を修得させるため、特別実験及び演習 12 単位を必修科目として配置する。また、文献演習 4 単位を必修科目として配置し、学術論文の読み方、専門情報の収集法、学術雑誌への投稿論文の書き方等について指導を行う。これらに加え、物理学の多様な分野に関する専門的知識を修得させるため、相当数の講義科目を配置する。

〈国際自然科学〉

- ・ 物理学分野の知識、最新の研究手法に関する知識、ならびに科学技術に関する英語運用能力を身につけるため、14 単位の講義科目を配置する。また、学術論文の読み方、専門情報の収集法、学術雑誌への投稿論文の書き方等について学ぶため文献演習 4 単位を必修科目として配置する。教育の核として、物理学分野の研究を遂行する能力を育成するため、特別実験及び演習 12 単位を必修科目として配置する。

【先進エネルギーナノ工学専攻】

〈理学〉

- ・ 研究室における指導をカリキュラムの核に、専攻分野において必要とされる理学的知識・技能を体系的に修得できるようカリキュラムを構成する。研究室における指導を通じて専攻分野における理学的・基盤的な研究課題の立て方の理解、研究を推進する能力、成果を論理的に説明し得る能力、学術研究における高い倫理性を育成するために特別実験及び演習 12 単位を必修科目として配置する。また、文献演習 4 単位を必修科目として配置し、学術論文の読み方、専門情報の収集法、学術雑誌への投稿論文の書き方等についての指導を行う。加えて、エネルギーを「創る」、「蓄える」、「運ぶ」、「有効に使う」の 4 つの分野に対応した科目を中心に、基礎から応用までの幅広い知識に基づく深い理学的専門性を体系的かつ横断的に学修させることを目的として、相当数の講義科目を配置する。

〈工学〉

- ・ 研究室における指導をカリキュラムの核に、専攻分野において必要とされる工学的知識・技能を体系的に修得できるようカリキュラムを構成する。研究室における指導を通じて専攻分野における工学的・応用的な研究課題の立て方の理解、研究を推進する能力、成果を論理的に説明し得る能力、学術研究における高い倫理性を育成するために特別実験及び演習 12 単位を必修科目として配置する。また、文献演習 4 単位を必修科目として配置し、学術論文の読み方、専門情報の収集法、学術雑誌への投稿論文の書き方等についての指導を行う。加えて、エネルギーを「創る」、「蓄える」、「運ぶ」、「有効に使う」の 4 つの分野に対応した科目を中心に、基礎から応用までの幅広い知識に基づく深い工学的専門性を体系的かつ横断的に学修させることを目的として、相当数の講義科目を配置する。

〈国際自然科学〉

- ・ エネルギーに関連したナノ材料を中心として、自然科学の知識、最新の研究手法に関する知識、ならびに科学技術に関する英語運用能力を身につけるため、14 単位の講義科目を配置する。また、学術論文の読み方、専門情報の収集法、学術雑誌への投稿論文の書き方等について学ぶため文献演習 4 単位を必修科目として配置する。教育の核として、研究を推進する能力を育成するため、特別実験及び演習 12 単位を必修科目として配置する。

【化学専攻】

〈理学〉

- ・ 研究室における指導をカリキュラムの核とする。特別実験及び演習 12 単位を必修科目として配置し、

化学における基礎的な分野において、研究課題の立て方の理解、研究を推進する能力、センス等を育成する。また、文献演習 4 単位を必修科目として配置し、学術論文の読み方、専門情報の収集法、学術雑誌の投稿論文の書き方等についての指導を行う。これらに加え、高度な化学知識と最新の研究手法を修得させるために、相当数の講義科目を配置する。

〈工学〉

- ・ 研究室における指導をカリキュラムの核とする。特別実験及び演習 12 単位を必修科目として配置し、化学における応用的な分野において、研究課題の立て方の理解、研究を推進する能力、センス等を育成する。また、文献演習 4 単位を必修科目として配置し、学術論文の読み方、専門情報の収集法、学術雑誌の投稿論文の書き方等についての指導を行う。これらに加え、高度な化学知識と最新の研究手法を修得させるために、相当数の講義科目を配置する。

〈国際自然科学〉

- ・ 化学分野の知識、最新の研究手法に関する知識、ならびに科学技術に関する英語運用能力を身につけるため、14 単位の講義科目を配置する。また、学術論文の読み方、専門情報の収集法、学術雑誌への投稿論文の書き方等について学ぶため文献演習 4 単位を必修科目として配置する。教育の核として、化学分野の研究を遂行する能力を育成するため、特別実験及び演習 12 単位を必修科目として配置する。

【環境・応用化学専攻】

〈理学〉

- ・ 研究室における指導をカリキュラムの核に、専攻分野において必要とされる知識・技能を体系的に修得できるようカリキュラムを構成する。研究室における指導を通じて専攻分野における高度専門職業人として、研究課題の立て方の理解、基礎研究を推進する能力、地球環境に関する様々な問題に対して主体的に基礎研究に取り組む能力を育成するために特別実験及び演習 12 単位を必修科目として配置する。また、最先端の知見について学術論文から情報を得、また自らの研究を論文としてまとめ、その成果を社会に還元するための情報発信能力を養うため、学術論文の読み方、専門情報の収集法、学術雑誌への投稿論文の書き方等についての指導を行う文献演習 4 単位を必修科目として配置する。また、環境と応用化学に関連した最先端の知識を修得し、地球環境に関する諸問題について応用化学的アプローチから基礎研究に主体的に取り組み、解決に導くための方法を身に付けさせるために、選択科目として環境分析・地球化学系、機能探索系、物質創成系の科目を中心とした相当数の講義科目を配置する。

〈工学〉

- ・ 研究室における指導をカリキュラムの核に、専攻分野において必要とされる知識・技能を体系的に修得できるようカリキュラムを構成する。研究室における指導を通じて専攻分野における高度専門職業人として、研究課題の立て方の理解、応用研究を推進する能力、地球環境に関する様々な問題に対して主体的に応用研究に取り組む能力を育成するために特別実験及び演習 12 単位を必修科目として配置する。また、最先端の知見について学術論文から情報を得、また自らの研究を論文としてまとめ、その成果を社会に還元するための情報発信能力を養うため、学術論文の読み方、専門情報の収集法、学術雑誌への投稿論文の書き方等についての指導を行う文献演習 4 単位を必修科目として配置する。また、環境と応用化学に関連した最先端の知識を修得し、地球環境に関する諸問題について応用化学的アプローチから応用研究に主体的に取り組み、解決に導くための方法を身に付けさせるために、選択科目として環境分析・地球化学系、機能探索系、物質創成系の科目を中心とした相当数の講義科目を配置する。

〈国際自然科学〉

- ・ 環境・応用化学分野の知識、最新の研究手法に関する知識、ならびに科学技術に関する英語運用能力を身につけるため、14 単位の講義科目を配置する。また、学術論文の読み方、専門情報の収集法、学術雑誌への投稿論文の書き方等について学ぶため文献演習 4 単位を必修科目として配置する。教育の核として、環境・応用化学分野の研究を推進する能力を育成するため、特別実験及び演習 12 単

位を必修科目として配置する。

【生命科学専攻】

〈理学〉

- ・ 研究室における基礎研究の活動をカリキュラムの核とし、研究を推進するための能力を育成するため、特別実験及び演習 12 単位を必修科目として配置する。また、文献演習 4 単位を必修科目として配置し、基礎研究の学術論文の読み方、専門情報の収集法、学術雑誌への投稿論文の書き方等についての指導を行う。これらに加え、高度な生命科学の知識並びに最新の基礎研究の手法に関する知識を修得させるために、相当数の講義科目を配置する。

〈工学〉

- ・ 研究室における応用研究の活動をカリキュラムの核とし、研究を推進するための能力を育成するため、特別実験及び演習 12 単位を必修科目として配置する。また、文献演習 4 単位を必修科目として配置し、応用研究の学術論文の読み方、専門情報の収集法、学術雑誌への投稿論文の書き方等についての指導を行う。これらに加え、高度な生命科学の知識並びに最新の応用研究の手法に関する知識を修得させるために、相当数の講義科目を配置する。

〈国際自然科学〉

- ・ 生命科学分野の知識、最新の研究手法に関する知識、ならびに科学技術に関する英語運用能力を身につけるため、14 単位の講義科目を配置する。また、学術論文の読み方、専門情報の収集法、学術雑誌への投稿論文の書き方等について学ぶため文献演習 4 単位を必修科目として配置する。教育の核として、生命科学分野の研究遂行能力を育成するため、特別実験及び演習 12 単位を必修科目として配置する。

【生命医化学専攻】

〈理学〉

- ・ 研究室における指導をカリキュラムの核に、専攻分野において必要とされる基礎医学系の知識・技能を体系的に修得できるようカリキュラムを構成する。研究室における指導を通じて専攻分野における研究課題の立て方の理解、研究を推進する能力、研究成果を論理的に説明し得る能力、学術研究における高い倫理性を育成するために特別実験及び演習 12 単位を必修科目として配置する。また、文献演習 4 単位を必修科目として配置し、学術論文の読み方、専門情報の収集法、学術雑誌への投稿論文の書き方等についての指導を行う。加えて、「基礎医化学分野」に加え、「応用医化学分野」についても学び、それらを融合させた幅広い知識を体系的かつ横断的に学修させることを目的として、相当数の講義科目を配置する。

〈工学〉

- ・ 研究室における指導をカリキュラムの核に、専攻分野において必要とされる応用医学系の知識・技能を体系的に修得できるようカリキュラムを構成する。研究室における指導を通じて専攻分野における研究課題の立て方の理解、研究を推進する能力、研究成果を論理的に説明し得る能力、学術研究における高い倫理性を育成するために特別実験及び演習 12 単位を必修科目として配置する。また、文献演習 4 単位を必修科目として配置し、学術論文の読み方、専門情報の収集法、学術雑誌への投稿論文の書き方等についての指導を行う。加えて、「応用医化学分野」に加え、「基礎医化学分野」についても学び、それらを融合させた幅広い知識を体系的かつ横断的に学修させることを目的として、相当数の講義科目を配置する。

〈国際自然科学〉

- ・ 生命医化学分野の知識、最新の研究手法に関する知識、ならびに科学技術に関する英語運用能力を身につけるため、14 単位の講義科目を配置する。また、学術論文の読み方、専門情報の収集法、学術雑誌への投稿論文の書き方等について学ぶため文献演習 4 単位を必修科目として配置する。教

育の核として、生命医化学分野の研究を推進する能力を育成するため、特別実験及び演習 12 単位を必修科目として配置する。

【情報科学専攻】

〈理学〉

- ・ 研究室における指導をカリキュラムの核とする。指導を通じて、健全な情報化社会の構想の立案に資する情報科学の理論に関連した研究課題の立て方の理解、研究を推進する能力、センス等を育成するために特別実験及び演習 12 単位を必修科目として配置する。また、文献演習 4 単位を必修科目として配置し、学術論文の読み方、専門情報の収集法、学術雑誌の投稿論文の書き方などについての指導を行う。これらに加え、情報科学分野の理論に関する知識・見識の修得と専門的な思考力の養成を目的として、相当数の講義科目を配置する。

〈工学〉

- ・ 研究室における指導をカリキュラムの核とする。指導を通じて、健全な情報化社会の構想の立案に資する情報科学の技術に関連した研究課題の立て方の理解、研究を推進する能力、センス等を育成するために特別実験及び演習 12 単位を必修科目として配置する。また、文献演習 4 単位を必修科目として配置し、学術論文の読み方、専門情報の収集法、学術雑誌の投稿論文の書き方などについての指導を行う。これらに加え、情報科学分野の技術に関する知識・見識の修得と専門的な思考力の養成を目的として、相当数の講義科目を配置する。

【人間システム工学専攻】

〈理学〉

- ・ 研究室における指導をカリキュラムの核とする。指導を通じて、人を中心とした新しいシステムを創出する人間システム工学の理論に関連した研究課題の立て方の理解、研究を推進する能力、センス等を育成するために特別実験及び演習 12 単位を必修科目として配置する。また、文献演習 4 単位を必修科目として配置し、学術論文の読み方、専門情報の収集法、学術雑誌の投稿論文の書き方などについての指導を行う。これらに加え、幅広い人間システム工学分野の理論に関する知識・見識の修得と専門的な思考力の養成を目的として、相当数の講義科目を配置する。

〈工学〉

- ・ 研究室における指導をカリキュラムの核とする。指導を通じて、人を中心とした新しいシステムを創出する人間システム工学の技術に関連した研究課題の立て方の理解、研究を推進する能力、センス等を育成するために特別実験及び演習 12 単位を必修科目として配置する。また、文献演習 4 単位を必修科目として配置し、学術論文の読み方、専門情報の収集法、学術雑誌の投稿論文の書き方などについての指導を行う。これらに加え、幅広い人間システム工学分野の技術に関する知識・見識の修得と専門的な思考力の養成を目的として、相当数の講義科目を配置する。

<博士課程後期課程>

理工学研究科ディプロマ・ポリシーに基づき、必修科目と「特別研究」科目を配置する。

【数理科学専攻】

〈理学〉

- ・ 自然科学はもとより社会科学への応用可能な数学の高等理論を修得させるとともに、高度研究能力と幅広い知識、国際的な情報発信能力を修得させるため、指導教員が在学期間中継続して研究指導を行う。また、自立した研究者に求められる知識やスキルを体系的に修得させるため、相当数の必修科目を配置する。

〈工学〉

- ・ 自然科学はもとより社会科学への応用可能な数理工学の高等理論を修得させるとともに、高度な研究

能力と幅広い知識、国際的な情報発信能力を修得させるため、指導教員が在学期間中継続して研究指導を行う。また、自立した研究者に求められる知識やスキルを体系的に修得させるため、相当数の必修科目を配置する。

【物理学専攻】

〈理学〉

- ・物理学に関する広範な見識、課題を発見・解決する高度な基礎研究能力、国際的な情報発信能力の全てを修得させるため、「特別研究」において、指導教員が継続した研究指導を行う。また、自立した研究者に求められる知識やスキルを体系的に修得させるため、相当数の必修科目を配置する。

〈工学〉

- ・物理学に関する広範な見識、課題を発見・解決する高度な応用研究能力、国際的な情報発信能力の全てを修得させるため、「特別研究」において、指導教員が継続した研究指導を行う。また、自立した研究者に求められる知識やスキルを体系的に修得させるため、相当数の必修科目を配置する。

【先進エネルギーナノ工学専攻】

〈理学〉

- ・専攻分野において、高度で幅広い理学的・基盤的な専門知識、研究推進能力、研究成果の論理的説明能力、学術研究における高い倫理性を深化させるべく、「特別研究」において指導教員が継続した研究指導を行う。同時に自ら理学的・基盤的な課題を設定し、解決する能力を涵養するため、さらに、未踏の研究分野に挑戦し、その分野を国際的に先導し得る研究企画能力を育成するために、指導教員が研究指導を行う。また、自立した研究者に求められる理学的・基盤的な知識やスキルを体系的に修得させるため、相当数の必修科目を配置する。

〈工学〉

- ・専攻分野において、高度で幅広い工学的・応用的な専門知識、研究推進能力、研究成果の論理的説明能力、学術研究における高い倫理性を深化させるべく、「特別研究」において指導教員が継続した研究指導を行う。同時に自ら工学的・応用的な課題を設定し、解決する能力を涵養するため、さらに、未踏の研究分野に挑戦し、その分野を国際的に先導し得る研究企画能力を育成するために、指導教員が研究指導を行う。また、自立した研究者に求められる工学的・応用的な知識やスキルを体系的に修得させるため、相当数の必修科目を配置する。

【化学専攻】

〈理学〉

- ・各自の研究発想及び展開に基づく創造性、独自性の高い化学基礎研究の遂行と、口頭発表、論文等による成果報告を軸として、指導教員が在学期間中継続して研究指導を行う。高度な化学知識と最新の研究手法を更に修得させつつ、研究推進能力、学術論文の読解能力、専門情報の収集能力、論文作成能力、国際的な情報発信能力等の自立した研究者に必要な能力を身につけさせる。また、自立した研究者に求められる知識やスキルを体系的に修得させるため、相当数の必修科目を配置する。

〈工学〉

- ・各自の研究発想及び展開に基づく創造性、独自性の高い化学応用研究の遂行と、口頭発表、論文等による成果報告を軸として、指導教員が在学期間中継続して研究指導を行う。高度な化学知識と最新の研究手法を更に修得させつつ、研究推進能力、学術論文の読解能力、専門情報の収集能力、論文作成能力、国際的な情報発信能力等の自立した研究者に必要な能力を身につけさせる。また、自立した研究者に求められる知識やスキルを体系的に修得させるため、相当数の必修科目を配置する。

【環境・応用化学専攻】

〈理学〉

- ・環境・応用化学に関する専門的な知識を身につけ、独創性の高い基礎研究を遂行する、研究者として、

自立して基礎研究を行うことができる能力を修得させるため、「特別研究」において、指導教員が在学期間中継続しての研究指導を行う。地球環境に関する諸問題について自ら研究テーマを設定し、その課題について応用化学的観点から基礎研究を行い、新規な知見を得ることにより問題の解決に結びつけることができ、さらに自身の専門とする分野を深く研鑽し、その結果を論文や学会等を通して公表することにより、国際的に活躍することができる能力を養うため、相当数の必修科目を配置する。

〈工学〉

- ・環境・応用化学に関する専門的な知識を身につけ、独創性の高い応用研究を遂行する、研究者として、自立して応用研究を行うことができる能力を修得させるため、「特別研究」において、指導教員が在学期間中継続しての研究指導を行う。地球環境に関する諸問題について自ら研究テーマを設定し、その課題について応用化学的観点から応用研究を行い、新規な知見を得ることにより問題の解決に結びつけることができ、さらに自身の専門とする分野を深く研鑽し、その結果を論文や学会等を通して公表することにより、国際的に活躍することができる能力を養うため、相当数の必修科目を配置する。

【生命科学専攻】

〈理学〉

- ・生命科学に関わる広い見識を身につけ、基礎研究の活動を通じて、自律的に課題を発見し解決する高度な能力を涵養する。基礎研究に関する英語論文の読解・作成、国内外での学術発表、および活発な議論を励行し、国際的な情報発信能力の修得を目的として、指導教員が在学期間中継続して、この指導を行う。また、自立した研究者に求められる知識やスキルを体系的に修得させるため、相当数の必修科目を配置する。

〈工学〉

- ・生命科学に関わる広い見識を身につけ、応用研究の活動を通じて、自律的に課題を発見し解決する高度な能力を涵養する。応用研究に関する英語論文の読解・作成、国内外での学術発表、および活発な議論を励行し、国際的な情報発信能力の修得を目的として、指導教員が在学期間中継続して、この指導を行う。また、自立した研究者に求められる知識やスキルを体系的に修得させるため、相当数の必修科目を配置

【生命医化学専攻】

〈理学〉

- ・生命医化学に関わる広い見識を身につけ、基礎医学系の研究を通じて、自律的に課題を発見し解決する高度な能力を涵養する。基礎医学系の研究に関する英語論文の読解・作成、国内外での学術発表、および活発な議論を励行し、国際的な情報発信能力の修得を目的として、指導教員が在学期間中継続して、この指導を行う。また、自立した研究者に求められる知識やスキルを体系的に修得させるため、相当数の必修科目を配置する。

〈工学〉

- ・生命医化学に関わる広い見識を身につけ、応用医学系の研究を通じて、自律的に課題を発見し解決する高度な能力を涵養する。応用医学系の研究に関する英語論文の読解・作成、国内外での学術発表、および活発な議論を励行し、国際的な情報発信能力の修得を目的として、指導教員が在学期間中継続して、この指導を行う。また、自立した研究者に求められる知識やスキルを体系的に修得させるため、相当数の必修科目を配置する。

【情報科学専攻】

〈理学〉

- ・健全な情報化社会の構築を技術面と倫理面からリードするための高度な研究遂行能力の養成と、幅広い情報科学分野の理論に関する知識や国際的な情報発信能力の修得を目的として、研究課題の設定、独自性の高い研究の推進、成果の発表等に関して、指導教員が在学期間中継続した研究指導を行う。また、自立した研究者に求められる知識やスキルを体系的に修得させるため、相当数の必修科目を配

置する。

〈工学〉

- ・健全な情報化社会の構築を技術面と倫理面からリードするための高度な研究遂行能力の養成と、幅広い情報科学分野の技術に関する知識や国際的な情報発信能力の修得を目的として、研究課題の設定、独自性の高い研究の推進、成果の発表等に関して、指導教員が在学期間中継続した研究指導を行う。また、自立した研究者に求められる知識やスキルを体系的に修得させるため、相当数の必修科目を配置する。

【人間システム工学専攻】

〈理学〉

- ・人を中心とした新しいシステムを創出し、新たな価値や産業を確立するための高度で柔軟な研究遂行能力の養成と、幅広い人間システム工学分野の理論に関する知識や国際的な情報発信能力の修得を目的として、研究課題の設定、独自性の高い研究の推進、成果の発表等に関して、指導教員が在学期間中継続した研究指導を行う。また、自立した研究者に求められる知識やスキルを体系的に修得させるため、相当数の必修科目を配置する。

〈工学〉

- ・人を中心とした新しいシステムを創出し、新たな価値や産業を確立するための高度で柔軟な研究遂行能力の養成と、幅広い人間システム工学分野の技術に関する知識や国際的な情報発信能力の修得を目的として、研究課題の設定、独自性の高い研究の推進、成果の発表等に関して、指導教員が在学期間中継続した研究指導を行う。また、自立した研究者に求められる知識やスキルを体系的に修得させるため、相当数の必修科目を配置する。

【総合政策研究科】

◆ DP ◆(2020 年度以前入学生用)

総合政策研究科では、在学中に、本研究科の理念である「自然と人間の共生、人間と人間の共生」への理解を深め、各自の専門領域において必要となる能力を身に着けるとともに、異なる専門領域についても幅広い学びを探求し、それらの学びを高度な次元で結合し、研究論文という形で取りまとめる力を培います。

修士学位は、課程の修了要件を満たし、修士論文の審査に合格した学生に授与されます。修了要件を満たすためには、所定の期間以上在籍し、所定の単位を修得することに加え、リサーチ・コンソーシアム及びリサーチ・フェアでの発表と、外国語(英語)学力の認定が求められます。修了要件にてらして、政策策定や政策評価に必要な専門知識、研究成果や研究内容を発表するためのプレゼンテーション能力、国際社会で専門家として活躍しうる語学力の習得状況を確認します。これらの能力や技能を総合的に判断するために、執筆された修士論文について公聴会、口頭試問および審査委員会を実施し、さらに研究科委員会での合否判定を経て学位が授与されます。修士論文の審査では、明確な根拠にもとづいたうえで新規性のある結論を提示する能力とともに、自身の研究が異なる専門領域との関連においてどのように位置づけられているかを説明する能力が身に着いているかどうかを確認します。

博士学位は、博士論文の審査に合格した学生に授与されます。諸政策の融合領域における研究課題の発見、企画、推進能力を修得し、国際的に通用する自立した研究者あるいは専門的実務家として認められることが、学位授与の前提となります。博士論文の審査を受けるためには、諸学会等での研究報告、審査付学術論文(あるいはそれに相当する著作)の公刊、博士論文概要審査での合格が求められます。これらの過程を経ることで、研究成果や研究内容を発表するためのプレゼンテーション能力が身に着いているか、自らの研究テーマについて専門家として十分なレベルに達しているかどうかを判断します。以上のような段階的審査過程を経て、最後は完成した博士論文について、公聴会、口頭試問および審査委員会を実施し、さらに研究科委員会での合否判定を経て学位が授与されます。博士論文の審査では、自身の専門分野において優れた研究業績を発表できる能力とともに、自身の研究を異なる専門領域との関連においてどのように位置づけるかを説明するための幅広い知識と柔軟な思考力が身に着いているかどうかを確認します。

◆ DP ◆(2021 年度以降入学生用)

総合政策研究科では、在学中に、本研究科の理念である「自然と人間の共生、人間と人間の共生」への理解を深め、各自の専門領域において必要となる能力を身に着けるとともに、異なる専門領域についても幅広い学びを探求し、それらの学びを高度な次元で結合し、研究論文という形で取りまとめる力を培います。

修士学位は、課程の修了要件を満たし、修士論文の審査に合格した学生に授与されます。修了要件を満たすためには、所定の期間以上在籍し、所定の単位を修得することに加え、リサーチ・コンソーシアム及びリサーチ・フェアでの発表と、外国語(英語)学力の認定が求められます。修了要件にてらして、政策策定や政策評価に必要な専門知識、研究成果や研究内容を発表するためのプレゼンテーション能力、国際社会で専門家として活躍しうる語学力の習得状況を確認します。これらの能力や技能を総合的に判断するために、執筆された修士論文について公聴会、口頭試問および審査委員会を実施し、さらに研究科委員会での合否判定を経て学位が授与されます。修士論文の審査では、明確な根拠にもとづいたうえで新規性のある結論を提示する能力とともに、自身の研究が異なる専門領域との関連においてどのように位置づけられているかを説明する能力が身に着いているかどうかを確認します。

博士学位は、博士論文の審査に合格した学生に授与されます。諸政策の融合領域における研究課題の発見、企画、推進能力を修得し、国際的に通用する自立した研究者あるいは専門的実務家として認められることが、学位授与の前提となります。博士論文の審査を受けるためには、諸学会等での研究報告、審査付学術論文(あるいはそれに相当する著作)の公刊、博士論文概要審査での合格が求められます。これらの過程を経ることで、研究成果や研究内容を発表するためのプレゼンテーション能力が身に着いているか、自らの研究テーマについて専門家

として十分なレベルに達しているかどうかを判断します。以上のような段階的審査過程を経て、最後は完成した博士論文について、公聴会、口頭試問および審査委員会を実施し、さらに研究科委員会での合否判定を経て学位が授与されます。博士論文の審査では、自身の専門分野において優れた研究業績を発表できる能力とともに、自身の研究を異なる専門領域との関連においてどのように位置づけるかを説明するための幅広い知識と柔軟な思考力が身に着いているかどうかを確認します。

◆ CP ◆

博士課程前期課程では、ヒューマン・エコロジーの理念に基づき、専門的知識と課題分析力・政策提案力を身につけた、国際社会で活躍できる専門家の養成を目指します。通常の講義と演習に加えて、複数の教員が担当・運営する「政策特別演習」を実施し、ひとつの課題を異なる視点からとらえて政策の編集・統合を試みるという主体的かつ学際的な研究・フィールドワークの機会を提供します。また、プレゼンテーション能力やディスカッション能力の開発のために、産官学民による共同研究体制としてのリサーチ・コンソーシアムや、学部と共催するリサーチ・フェアでの発表を義務付けます。なお、一級建築士受験資格取得を希望する学生のために、二年間の実務経験として認定される講義及び演習科目・インターンシップ科目を開講します。

博士課程後期課程では、高度な専門性とゆたかな独創性を兼ね備えた、国際社会で通用する研究・教育者あるいは専門的実務家の養成を目指します。研究指導と論文指導を基本的カリキュラムとし、在学中からの諸学会での研究発表を支援します。与えられた研究課題を受動的にこなすのではなく、自ら研究テーマを設定し、研究のチームリーダーとしても行動できる、研究企画力や総合力の獲得も目指します。

【言語コミュニケーション文化研究科】

◆ DP ◆

言語コミュニケーション文化研究科では、本学の基本理念のもとに高度な言語コミュニケーション能力を備え、建学の精神に基づく豊かな人間性と国際的・文化的視野を持ち、高度の学問的専門性を備えた人材の育成を推進しています。

博士課程前期課程 言語コミュニケーション文化専攻

博士課程前期課程 言語コミュニケーション文化専攻では、高度な言語コミュニケーション能力を養成し、その基盤の上に、言語科学、言語文化学、言語教育学、日本語教育学の研究を進める能力、それを実行・実現する力を有する人材として、下記の力を身につけた人物に対して学位を授与します。

修士（言語科学）

1.（知識・技能）

高度な言語運用能力を背景に、言語科学に関する専門領域において文献から幅広い知識を得、必要な実験・調査を計画・遂行する技能を有している。

2.（思考力・判断力・表現力等の能力）

言語科学に関する専門領域において、問題解決のために必要な科学的・論理的分析を行い、その結果を適切に伝える表現力を有している。

3.（主体的な態度）

言語科学に関する専門領域において、先行研究を踏まえつつ未解決かつ有意義な問題を見極め、自ら実験・調査を行い、学術論文を執筆する積極的態度を有している。

修士（言語文化学）

1.（知識・技能）

言語文化学に関する専門領域において、言語と関わる文化についての幅広い知識、文献やデータを収集しそれを読解・分析する技能、高度な言語運用能力を有している。

2.（思考力・判断力・表現力等の能力）

言語文化学に関する専門領域において、専門的知識に基づき、重要な研究テーマを見抜き、研究を論理的に進める思考力、自らの研究の客観的意義を把握する判断力、自らの思考や判断を適切に伝える表現力を有している。

3.（主体的な態度）

言語文化学に関する専門領域において、研究テーマを設定し、先行研究を踏まえつつ、自ら調査・分析を行い、学術論文の執筆を進める積極的態度を有している。

修士（言語教育学）

1.（知識・技能）

言語教育学に関する専門領域において、言語とその教育に関わる諸領域の幅広い知識を身につけ、関連する分野の文献やデータを収集し、それを読解・分析する技能、高度な言語運用能力を有している。

2.（思考力・判断力・表現力等の能力）

言語教育学に関する専門領域において、専門的知識に基づき、重要な研究テーマを見抜き、研究を論理的に進める思考力、自らの研究の客観的意義を把握する判断力、自らの思考や判断を適切に伝える表現力を有している。

3.（主体的な態度）

言語教育学に関する専門領域において、研究テーマを設定し、先行研究を踏まえつつ、自ら調査・分析を行い、学術論文の執筆を進める積極的態度を有している。また、理論に基づき、教育現場で実践する積極的態度を有している。

修士（日本語教育学）

1.（知識・技能）

日本語教育学に関する専門領域において、学際的領域である日本語教育に関わる幅広い知識、文献やデータを収集しそれを読解・分析する技能、日本語教育の実践者としての教授能力を有している。

2.（思考力・判断力・表現力等の能力）

日本語教育学に関する専門領域において、専門的知識に基づき、重要な研究テーマが何であるかを見抜き、研究を論理的に進める思考力、自らの研究の客観的意義を把握する判断力、自らの思考や判断を適切に伝える表現力を有している。

3.（主体的な態度）

日本語教育学に関する専門領域において、研究テーマを設定し、先行研究を踏まえつつ、自ら調査・分析を行い、学術論文の執筆を進める積極的態度を有している。同時に、日本語教育の実践を通して地域社会、国際社会に貢献する意欲を持っている。

博士課程後期課程 言語コミュニケーション文化専攻

博士課程後期課程 言語コミュニケーション文化専攻では、前期課程で培った幅広い知識と研究能力を、言語コミュニケーション能力の理論的解明に特化した、高度で先進的な研究へと結実させる能力、それを実行・実現する力を有する人材として、下記の力を身につけた人物に対して学位を授与します。

博士（言語コミュニケーション文化）

1.（知識・技能）

言語コミュニケーション文化に関する専門領域において、自立した研究者に求められる、広く深い知識、研究を進める上で必要な技能、高度な言語運用能力を有している。

2.（思考力・判断力・表現力等の能力）

言語コミュニケーション文化に関する専門領域において、急速に国際化や情報化が進む社会に対応できる、専門的かつ学際的な思考力や判断力、研究成果を世界へと発信するに十分な表現力を有している。

3.（主体的な態度）

言語コミュニケーション文化に関する専門領域において、先端的研究テーマを設定し、先行研究を踏まえつつ、自ら調査や実験・分析を行い、独創的研究を進める態度を有している。

◆ CP ◆

博士課程前期課程 言語コミュニケーション文化専攻

博士課程前期課程 言語コミュニケーション文化専攻では、学位授与の方針に掲げる目標を達成するために、以下の点を踏まえて、言語コミュニケーション能力養成科目、領域研究科目、実習科目及び演習科目を体系的に教育課程として編成します。

1. 教育内容

(1) 教養教育

ア 豊かな人間性と国際的・文化的視野をもった人材を育成するために、教養教育として、言語コミュニケーション能力養成科目の中に基礎科目を配置し、総合的な言語能力を養う。

イ 外国語文献の読解やプレゼンテーション・論文作成・コミュニケーションのための外国語力を備えた人材を育成するために、教養教育として、言語コミュニケーション能力養成科目の中に運用能力養成科目を配置し、専門的な言語能力を養う。

(2) 専門教育

修士（言語科学）

音声・統語・意味等の言語現象を扱う分野、および言語習得論・辞書学等、言語に密接に関連する分野

を中心に、横断的かつ専門的に学ぶことができるカリキュラムを提供している。それにより、言語科学の各分野に特有のリサーチクエスチョンの設定、実験・調査等の計画・遂行、学術論文の執筆まで行えるような人材を育成することを目的とする。

ア 幅広い言語科学関連分野の知見を得ることができるよう、オムニバス科目を設置している。

イ 言語現象についての知識および分析法を学ぶため、音声・統語・意味等の各分野に対応した講義科目を設置している。

ウ 言語が関わる学際的・応用的分野に関する知見を深めるため、コーパス言語学・心理言語学・辞書学等の講義科目を設置している。

エ 個別に論文執筆の指導を行うため、研究演習を2年もしくは課題研究を1年（課題研究コースのみ）にわたって配置している。

修士（言語文化学）

言語文化学と関わる、文化学、異文化理解、思想や批評、演劇や映画、各言語圏文化などの分野を中心とし、それらを段階的かつ横断的に学ぶことができるようカリキュラムを提供している。それにより、言語文化学と関わる課題を見出し、専門的かつ学際的な見地から資料を収集・読解・分析し、学術論文を執筆できるような人材を育成することを目的とする。

ア 理論的な枠組みを把握するために、文化学、異文化理解、思想や批評、演劇や映画といった、文化と関わる科目を設置している。

イ 各言語圏の事象を深く理解するため、日本文化、英語圏文化、仏語圏文化、独語圏文化、中国語圏文化といった、言語圏ごとの文化と関わる科目を設置している。

ウ 言語文化学をより広い見地から把握するため、多言語主義・多文化共生の科目を設置している。

エ 個別に論文執筆の指導を行うため、研究演習を2年に渡って配置している。

修士（言語教育学）

言語コミュニケーションをいかにして効果的に習得させるかという方法論を探究するために、言語教育学、第二言語習得、言語学習心理学、カリキュラムデザイン、教育評価、などの分野を中心とし、それらを段階的かつ横断的に学ぶことができるようカリキュラムを提供している。それにより、様々な言語の教育に関する諸課題を見出し、専門的かつ学際的な見地から資料を収集・読解・分析し、学術論文を執筆でき、教育現場で活躍できる人材を育成することを目的とする。

ア 理論的な枠組みを把握するために、言語教育学、第二言語習得、言語学習心理学、早期英語教育理論といった、言語教育理論と関わる科目を設置している。

イ 実践的な言語教育方法を探求できるように、カリキュラムデザイン、授業分析、英語教育法、英語教育教材研究、英語教育実践、英語教授法実践といった科目を設置している。

ウ 言語教育学をより広い見地から把握するため、言語教育と社会、言語教育政策といった、言語と文化、社会との関係を研究する科目を設置している。

エ 個別に論文執筆の指導を行うため、研究演習を2年もしくは課題研究を1年（課題研究コースのみ）に渡って配置している。

修士（日本語教育学）

日本語教育と関わる、言語学、教育学、文化学などの分野を中心とし、それらを段階的かつ横断的に学ぶことができるようカリキュラムを提供している。それによって、日本語教育学と関わる課題を見出し、専門的かつ学際的な見地からデータを収集・分析し、学術論文を執筆し、そして修了後、日本語教育を通じて地域社会・国際社会へ貢献できる人材の育成を目的としている。

ア 日本語教育学に包含する多くの分野を把握するため、言語、文化、社会、教育、政策などに関わる科目を設置している。

イ 日本語教育学と関わる課題を見出し、専門的かつ学際的な研究を行うため、音声・語彙・文法・文字教育、教材開発、教授法、会話分析法、フィールド調査法など、多岐にわたる科目を設置している。

ウ 教材分析、教案作成および模擬授業を行いながら、日本語を教えるために必要な知識やスキルを身につけるための実習科目を設置している。

エ 個別に論文執筆の指導を行うため、研究演習を2年にわたって配置している。

博士課程後期課程 言語コミュニケーション文化専攻

博士課程後期課程 言語コミュニケーション文化専攻では、学位授与の方針に掲げる目標を達成するために、以下の点を踏まえて、個別指導及び集団指導を有機的に教育課程として編成します。

1. 教育内容

博士（言語コミュニケーション文化）

個別指導（個別研究指導）と集団指導（リサーチセミナー）により、博士論文執筆を指導し、自立した研究者を育成することを目的とする。

ア 独創的な知見を基にした優れた博士論文を仕上げるため、研究対象関連分野に対する横断的・総合的視野を持ち、言語コミュニケーション文化の研究者として独り立ちできるよう、個別研究指導を設置している。

イ 言語科学、言語文化学、言語教育学、日本語教育学の4領域を統合した言語コミュニケーション文化の観点から、横断的・総合的に研究を推進できるよう、3名の教員からなるアドバイザー・コミッティが集団指導を行う、リサーチセミナーを設置している。

【人間福祉研究科】

人間福祉研究科では以下の教育課程の基本理念の下、ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）およびカリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）を定めています。

I. 教育課程の基本理念

[前期課程]

- ① 建学の精神であるキリスト教主義教育の価値観、ならびにスクールモットー「Mastery for service」の理念を理解し、実践に反映できる能力の育成
- ② 人間福祉の基礎となる価値・思想・理論・歴史、ならびに学問的方法論の修得
- ③ 研究を遂行するにあたって求められる高い研究倫理の涵養
- ④ 児童、高齢者、障がい者等の社会福祉学分野の研究
- ⑤ ソーシャルワークの諸理論の理解と実践方法の分析や開発能力の育成
- ⑥ 社会福祉政策、社会福祉行財政、国際福祉等に関する分析と問題解決能力の育成
- ⑦ 人間の生と死にかかわる本質的な課題や健康・スポーツ、身体論についての理解と実践能力の育成
- ⑧ 人間福祉の諸領域におけるリサーチ方法、分析能力、立案能力の育成
- ⑨ 専門職に対するスーパービジョン能力の育成

[後期課程]

- ① 建学の精神であるキリスト教主義教育の価値観、ならびにスクールモットー「Mastery for service」の理念を理解し、実践に反映できる能力の育成
- ② 研究を遂行するにあたって求められる高い研究倫理の涵養
- ③ 社会福祉の価値を理解し、将来人間福祉に関連した研究ならびに教育活動を通じて学問の発展と現代社会に生きる人々の幸福(Well-being)に寄与する指導的立場を担える人材の育成
- ④ 人間福祉関連諸科学の方法論の修得
- ⑤ 人間福祉に関連する種々の国内及び海外における論文、著書、資料を通して科学的な見地から問題を分析し概念化できる能力の育成
- ⑥ 高い量的・質的リサーチ技法を諸々の分野で活用できる人材の育成
- ⑦ 高度な専門性を備えた研究者の育成

◆ DP ◆

Kwansei コンピテンシーの獲得を念頭において、人間福祉研究科のDPを以下のとおり定める。

<2023年度以降入学生>

[前期課程]

修士(人間福祉)の学位は、以下の修了要件を満たす者に与えられます。

1. 人間福祉研究科博士課程前期課程に所定の年限在学し、所定の単位を修得し、修士論文の審査に合格した者。
2. 人間福祉研究の基礎となる思想・理論・歴史、及びその応用と発展につながる社会科学と人間科学の関連領域を学び、福祉の現場、行政、教育分野等において広く福祉社会の維持・発展に貢献できる高度な専門知識、及び実践的な技法を有すると認められ、かつ研究倫理プログラムを受講し修了した者。

[後期課程]

博士(人間福祉)又は博士(学術)の学位は、以下の修了要件を満たす者に与えられます。

1. 人間福祉研究科博士課程に所定の年限在学し、所定の単位を修得し、博士論文の審査に合格した者。
2. 人間福祉の専門領域において、自立した研究者として高い水準の研究から得た独自データを活用できる高度な研究能力、及び専門領域に新たな理論的枠組みを提供する独創的な知見を有すると認められ、かつ研究倫理プログラムを受講し修了した者。

<2022年度以前入学生>

[前期課程]

修士(人間福祉)の学位は、以下の修了要件を満たす者に与えられます。

1. 人間福祉研究科博士課程前期課程に所定の年限在学し、所定の単位を修得し、修士論文の審査に合格した者。
2. 人間福祉研究の基礎となる思想・理論・歴史、及びその応用と発展につながる社会科学と人間科学の関連領域を学び、福祉の現場、行政、教育分野等において広く福祉社会の維持・発展に貢献できる高度な専門知識、及び実践的な技法を有すると認められる者。

[後期課程]

博士(人間福祉)又は博士(学術)の学位は、以下の修了要件を満たす者に与えられます。

1. 人間福祉研究科博士課程に所定の年限在学し、所定の単位を修得し、博士論文の審査に合格した者。
2. 人間福祉の専門領域において、自立した研究者として高い水準の研究から得た独自データを活用できる高度な研究能力、及び専門領域に新たな理論的枠組みを提供する独創的な知見を有すると認められる者。

◆ CP ◆

上記のディプロマ・ポリシーに基づいて教育を行うために、人間福祉研究科では以下のようなカリキュラム・ポリシーを定めています。

[前期課程]

前期課程では、研究者育成を目的としたカリキュラムだけでなく、福祉社会の維持・発展に貢献できる人材育成を前提とした多様なカリキュラムを整備しています。「人と社会（環境）の相互作用」の科目では社会福祉の様々な分野について、「社会系」の科目では福祉社会を支える国家や社会の構造について学びます。そして「人間系」科目では、人のこころと身体にかかわる問題を学びます。これらの科目以外にも、英語文献の講読科目やフィールドワーク科目を開講しており、狭い専門領域にとらわれることなく幅広く学べるように科目を配置しています。これらの科目を修得することで高度な知識と専門的技法を身に付け、その成果を修士論文としてまとめることができるように論文指導を行います。

[後期課程]

<2024年度以降入学生>

本研究科の目指す、高度な専門性とゆたかな独創性を兼ね備えた、国際社会で通用する研究者の養成のために、3年以上在学し、必要な研究指導を受けた上で、キャンディデートの承認を経て博士学位申請論文の審査に合格することを修了要件（博士学位取得）としています。

「研究演習」と「人間福祉文献研究講読（英語）」を必修科目として開講し、「研究演習」では、博士学位申請論文作成に必要となる「研究指導」を行い、「人間福祉文献研究講読（英語）」では、英語文献を中心とした海外の学術的文献を活用して国内外両方の人間福祉に関わる領域に関する知見を深め問題を分析する能力の修得を目指します（ただし、外国語学力認定試験に合格した場合は、その合格をもって「人間福祉文献研究講読（英語）」の単位を認定します）。加えて、選択科目として「量的調査法A」、「量的調査法B」及び「質的調査法」が開講され、リサーチ能力の涵養を目指します。

また「研究演習」では、キャンディデートの承認に必要となる学術論文の学術誌への投稿や学会発表についても指導を行い、博士学位申請論文作成と同時に独立した研究者として活動するために求められる能力の醸成を行います。指導教員は、学生と相談の上で研究テーマに適した副指導教員2名を選び、指導チームとして多面的なアプローチと視座で研究を推進できるような体制を整えつつ、「博士論文計画書（年次研究計画書）」「年度中間審査」「年度末審査」「博士学位申請論文中間報告書」といった博士学位申請論文を作成するための各段階に学生が適切に対応できるよう指導を行います。学生は、こうした指導を受けつつ、与えられた研究課題をただ受動的にこなすのではなく、研究企画力や総合力の獲得を目指します。

<2023年度以前入学生>

本研究科の目指す、高度な専門性とゆたかな独創性を兼ね備えた、国際社会で通用する研究者の養成のために、3年以上在学し、必要な研究指導を受けた上で、キャンディデートの承認を経て博士学位申請論文の審査に合格することを修了要件（博士学位取得）としています。

「研究演習」と「人間福祉文献研究講読（英語）」を必修科目として開講し、「研究演習」では、博士学位申請論文作成に必要となる「研究指導」を行い、「人間福祉文献研究講読（英語）」では、英語文献を中心とした海外の学術的文献を活用して国内外両方の人間福祉に関わる領域に関する知見を深め問題を分析する能力の修得を目指します（ただし、外国語学力認定試験に合格した場合は、その合格をもって「人間福祉文献研究講読（英語）」の単位を認定します）。

また「研究演習」では、キャンディデートの承認に必要となる学術論文の学術誌への投稿や学会発表についても指導を行い、博士学位申請論文作成と同時に独立した研究者として活動するために求められる能力の醸成を行います。指導教員は、学生と相談の上で副指導教員を選び、多面的なアプローチと視座で研究を推進できるような体制を整えつつ、本研究科が各年次に設定している「博士論文計画書（年次研究計画書）」「後期課程成果報告会」「博士学位申請論文中間報告書」といった博士学位申請論文を作成するための各段階に学生が適切に対応できるよう指導を行います。学生は、こうした指導を受けつつ、与えられた研究課題をただ受動的にこなすのではなく、研究企画力や総合力の獲得を目指します。

【教育学研究科】

教育研究上の目的

今日の価値観が多様で不確実な社会状況においては、人々が互いのライフ・ミッションの実現へ向けて「共生」できるインクルーシブな社会形成をめざしつつ、意味豊かに世代が継承されていくための普遍的な営み(=要:かなめ)である保育・教育に、世界市民の一員としての使命を自覚した研究者と教育者が求められている。

教育学研究科は、このような認識のもと、関西学院のキリスト教主義に基づいて、人間一人ひとりの〈いのち〉が、唯一無二の贈与であることへの畏敬をもとに「子ども理解」を深め、「教育とは何か」「人間とは何か」「共生とは何か」を根源的に問い続けながら、広く深い教養としなやかな批判意識をもって、現代の複雑で困難な諸問題、生涯にわたる人間形成上の諸問題に向き合う「研究者」の養成と、その専門性によって奉仕的なリーダーシップを発揮することができるような研究マインドをもった「教育者」の養成を行うことを目的としている。その際、家庭、地域、学校など広く社会全般の人間関係、異なる世代間の影響関係を全体的に視野に入れ、社会貢献に繋がるような研究を行うことを重視している。

また、以上を実現するために、教育研究の基礎をしっかりと学び取ると同時に、本学院の理想である「学びと探究の共同体」の実現を念頭におき、大学院生相互の学び合いを活性化し、研究科における多様な学びを有機的に連動させて、各自の研究に活かすことを奨励している。

◆ DP ◆

教育学研究科は、上記の教育研究上の目的を念頭において、博士課程前期課程と博士課程後期課程において、以下の要件を満たす学生に対し、前期課程は修士(教育学)、後期課程は博士(教育学)の学位を授与する方針を定めている。

【博士課程前期課程】

1. 教育学研究科博士課程前期課程に所定の年限在学し、所定の単位を修得し、修士論文の審査に合格した者。
2. それぞれの学問的研鑽によって、卓越した研究者、保育者、教育者として社会に貢献できる資質を培った者。
3. 意味豊かに世代継承していくための普遍的な営み(=要:かなめ)としての保育・教育に、世界市民の一員としての使命(ミッション)を自覚している者。
4. 広く深い教養と学識、しなやかな批判精神をもって、現代の複雑で困難な教育環境や人間形成上の問題に向き合い、それを学問的に探究し、論理的に表現できる能力を培った者。
5. 教育学的専門性によって深い人間理解と実践的・臨床的賢慮を磨き、奉仕的なリーダーシップを発揮する素地を培った者。

【博士課程後期課程】

1. 教育学研究科博士課程後期課程に所定の年限在学し、所定の単位を修得し、博士論文審査に合格した者。
2. 自立した研究者として当該分野の中で活躍していく能力および学識が認められる者。
3. 意味豊かに世代継承していくための普遍的な営み(=要:かなめ)としての保育・教育に、世界市民の一員としての使命(ミッション)を自覚している者。
4. 広く深い教養と学識、しなやかな批判精神をもって、現代の複雑で困難な教育環境や人間形成上の問題に向き合い、それを学問的に探究し、論理的に表現できる高度な能力を有する者。
5. 教育学的専門性によって深い人間理解と実践的・臨床的賢慮を磨き、奉仕的なリーダーシップを発揮する素地を有する者。

◆ CP ◆

教育学研究科では、以上の教育目的を達成するため、乳幼児教育研究領域、共生教育研究領域ともに、次のような方針でカリキュラムを編成し、実施している。

【博士課程前期課程】

乳幼児教育研究領域、共生教育研究領域は、ともにそれぞれの目的に応じたカリキュラム編成を行っている。各領域には「研究者養成コース」と「高度教育コース」が設けられ、同一領域内での開設科目群から、コースの目的に応じて修得すべき科目の選定を行っている。各領域の開設科目群は、研究基礎科目、専門領域科目、フィールドワーク科目、研究演習から構成され、研究者養成の基礎となる科目や教員に求められる高度な専門性を培う科目を配置している。

研究基礎科目、専門領域科目には、教育学を体系的に学ぶことができるように科目が配置されている。各研究領域には、単独で開講されている科目に加え、包摂的な学びを可能とするために共通開設科目を設けている。フィールドワーク科目では、乳幼児教育や初等・中等教育に関連する現場等での実践研究に取り組み、理論と実践の往還を重視している。研究演習においては自らの研究を論理的に展開できる学問的な能力の育成を高める指導・助言が行われ、修士論文の作成を最終目標としている。

「研究者養成コース」および「高度教育コース」ともに、修士学位取得に必要な単位数は32単位であり、うち必修単位は研究演習8単位のほか、コースごとに定められている（表参照）。

「研究者養成コース」においては、5年間の博士課程を見据えたコースワークに基づき研究基礎科目を中心に12単位の必修科目が定められている。「高度教育コース」においては、前期課程の2年間で教員に求められる高度な専門性を幅広く学ぶことができるよう研究基礎科目2単位およびフィールドワーク科目2単位以外は、すべて選択科目である。

表)カリキュラム科目区分と必修単位数

科目区分	研究者養成コース	高度教育コース
研究基礎科目	12	2*
領域専門科目	—	—
フィールドワーク科目	—	2
研究演習	8	8
修了要件修得単位数	32	32

*選択必修

【博士課程後期課程】

コースワークとして教育学特殊講義が、リサーチワークとして研究演習が、設けられている。教育学特殊講義においては、様々な領域への学びと探究を促すコースワークが行われる。研究演習においては、学位論文提出までの間、指導教員を中心とした指導・助言など、博士学位を取得するためのきめ細やかな指導が行われる。

【国際学研究科】

◆ DP ◆

国際学研究科は、本研究科の教育・研究上の理念・目的に基づき、文化、社会・ガバナンス、および経済・経営の3つの専門領域に基づく、2つの地域別研究コース（北米研究およびアジア研究）と、地域間や地域を越えた地球規模の研究を行うグローバル研究コースを設ける。

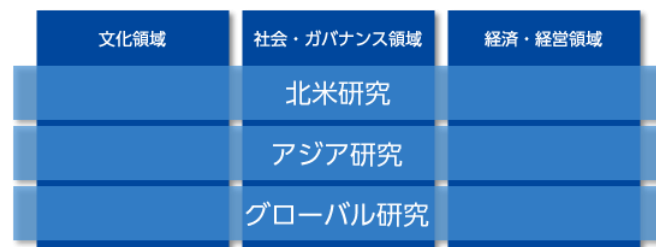
博士課程前期課程においては、3つの専門領域のうち、研究課題との関連性の高い、少なくとも2つの領域を学習し、研究視野を広げることを通じて専門性を高めること、また、国際標準語としての英語総合力、とくに英語による対話力を培う。修士論文作成にあたっては、研究課題周辺の先行研究を十分に踏まえ、既存研究に新たな発見・知見を加え、広く国際社会に発信できるような成果をあげる。

博士課程後期課程においては、博士課程前期課程の履修成果をさらに進め、学際的視野をもちつつ、より高度な専門性と研究者としての自立性を確立する。その上でさらに、他の専門領域研究者やフィールドあるいは市民に対して研究課題のフロンティアを周知させ、また、そこからフィードバックを受容することのできる発信力と対話力を身につけた研究者を養成する。

本研究科の専任教員は各々、「国際」を切り口に、文化、社会・ガバナンス、および経済・経営の各領域に含まれる人文・社会科学の様々な専門分野に基づいて研究を行っており、本研究科内にて専門領域を跨る共同研究、研究会などを通じて、研究面での相乗効果が期待できる。

学生は、その専門領域を縦軸とし、北米研究コース、アジア研究コースおよびグローバル研究コースを横軸として、横断的、学際的に研究することにより成果をあげる。本研究科では、このような教育・研究アプローチを「国際学」とよぶ。本研究科の教育・研究の特色は次のようにイメージ化できる。

国際学研究



以上の教育・研究から、修士（国際学）（英文名称: Master of Arts in International Studies）、博士（国際学）（英文名称: Doctor of Philosophy in International Studies）の学位を授与する。

◆ CP ◆

多様な文化・価値観が共存する現実の中で国際社会とそのガバナンス構造の変容に関わる様々な地域的・地球的課題を分析し、解決策を講じるためには、歴史的・地域的に形成されてきた多様な文化・価値観、それに基づく社会ガバナンス構造、そしてその制度的枠組みとの相互作用の中で繰り広げられる経済経営行動を横断的に理解・分析する能力、それに基づいて各課題の解決策を提案・実践する能力、およびそれらの成果を分析・評価する能力をもつ人材が必要である。

そこで本研究科では、文化、社会・ガバナンス、および経済・経営の3つの専門領域を横断する、2つの地域別研究コース（北米研究およびアジア研究）とグローバル研究コースを履修コースとしておく。北米研究コースは、アメリカ、カナダを、アジア研究コースは、日本、中国、アジアNIEs、ASEAN、オセアニアを主な対象地域とし、グローバル研究コースは、地域間や地域を越えた課題を扱う。

なお、教育課程の特色として以下を掲げる。

【博士課程前期課程】

①高い英語能力を前提としたカリキュラム。ここでは、国際標準語としての英語総合力に基づく各専門分野・課

題の追求を目指す。具体的には、英語文献の読解能力に加えて、国際セミナー・会議・学会等における英語によるプレゼンテーション能力、Q&A に対応できる対話力を専門領域の研究演習を通じて実践的に習得させる。

②複数指導教員による、徹底した少人数教育。ここでは、少人数教育によるきめ細かい指導を目指すと同時に、複数指導による客観性・公平性を確保する。

③3つの専門領域のうち、少なくとも2つの領域と、複数の研究コースの科目履修を通じて学習することによる学際性と国際性。ここでは、研究課題と関連性の高い複数の専門領域を学んで研究視野を広げるとともに、グローバルな、あるいは国際比較の視点から地域の課題を探求することによって、学際的・国際的な課題研究を行うことを目指す。

【博士課程後期課程】

①学際的視野をもちつつ、博士課程前期課程の履修成果をさらに推し進めた高度な専門性と研究者としての自立性。ここでは、博士課程前期課程の特徴をさらに前進・深化させるとともに、自立した研究者を輩出する。

②学際的視野を通じた、他の専門領域研究者やフィールドあるいは市民と専門領域の研究フロンティアをつなぐことのできる対話力。ここでは、他の専門領域や一般市民に専門領域の進展を周知・理解させ、そこからさらにフィードバックを受容できる発信力と対話力を磨く。

【司法研究科】

◆ DP ◆

3年(6学期間。なお、法学既修者については、2年・4学期間)以上在学し、「法律基本科目群」「実務基礎科目群」「基礎法学・隣接科目群」「展開・先端科目群」「特別演習科目群」の5つの科目群から、修了に必要な所定の単位を修得することを要求している。なお、1年次から2年次、および2年次から3年次への進級に際しては、「法律基本科目群」および「実務基礎科目群」の必修科目の平均 GPA を基準にした進級制度を設けている。これら5つの科目群の学修を通して、厳格な成績評価のもと、法曹に求められる最低限の法に関する専門知識と、それをもとにした体系的な法的思考能力、創造的・批判的な法的思考能力、事例の分析能力を身につけた者に、法務博士の学位を授与する。

◆ CP ◆

基礎から応用へ。実定法を中心とした法の基本知識の修得、その理解の進化、実務の基本知識の修得、そして総合的学修、展開・先端科目の学修へ。このような段階的学修のために、独自のカリキュラムを用意し、司法ニーズに的確に対応できる、幅広い教養と人間性を身につけた法曹を養成する。最終年次のカリキュラムは、一人ひとりの自主性を尊重した自由度の高いものとなっており、それぞれの目標に応じた学びを実現することができる。完全セメスター制を採用し、集中的に学修する。

まず、1年次では、法律の基本的な知識の修得を目的とした法律基本科目を必修科目として配置するとともに、幅広い教養と豊かな人間性を養うことを目的として基礎法学・隣接科目群を配置している。また、少人数で行う基礎演習を設け、導入教育を行う。次に、2年次では、法律基本科目の他、その発展として、各実定法の演習科目を必修科目の要とし、重要論点を双方向のケースメソッドなどで学修することにより、当該法律についての理解をより深めていく。また、実務基礎科目群は、ロースクール教育の柱の一つである「実務教育の導入部分」を担い、1年次で修得した基本的知識をもとに法曹としての責任感・倫理観を涵養する。現実と触れ合う科目を幅広く設置することにより確実な実務基礎の修得を図り、エクスターンシップ、ローヤリング、クリニックなどにより実務的感覚を体得する。さらに、展開・先端科目群は、法曹としてどのようなフィールドに進むのかを発見したり、すでに関心のある専門領域を持っている者の基礎的教育を目的としている。「企業法務科目」「国際関係科目」「現代社会と法関係科目」「政策法務科目」という4つの領域に配置された科目は網羅的であり、現代の各領域における問題点を取り扱う。最後に、3年次では、法律基本科目について総合的・横断的な学修を行う。また、少人数で行う特別演習を設け、思考力、論理力、表現力などの養成を行う。

【経営戦略研究科】

専門職学位課程

◆ DP ◆

経営戦略専攻（ビジネススクール）

MBA教育を行う「経営戦略専攻（ビジネススクール）」では、以下の能力を持った学生に「経営管理修士（専門職）」の学位を与えます。

第1は、スクールモットーである Mastery for Service（奉仕のための練達）のスピリットを体現する高い職業倫理観を持ち、グローバルに活躍できる能力を有する学生です。第2は、科学的な視点をもって専門知識を駆使する能力を有する学生です。それに加えて、企業経営戦略コースの場合には、自らの業務に結びついた問題を発見・解決する能力を有することが重要になります。また国際経営コースの場合には、グローバルなビジネスシーンで活躍できる英語能力を有することが重要になります。

会計専門職専攻（アカウンティングスクール）

公認会計士等の職業会計人を養成する「会計専門職専攻（アカウンティングスクール）」では以下の能力を持った学生に「会計修士（専門職）」の学位を与えます。

まず、スクールモットーである Mastery for Service（奉仕のための練達）のスピリット、ならびに国際経済社会の健全な発展に寄与する高い会計倫理観を有し、加えて、会計に関する国際的な教育基準に従った知識およびグローバルな視野を持ち、世界に貢献し得る能力を有する学生です。なお、会計専門職専攻が育成する職業会計人には、企業や官公庁において専門家として会計実務に携わる人たちをも包含しています。

◆ CP ◆

経営戦略専攻（ビジネススクール）

経営戦略専攻では、グローバル化する経済活動に適切に対応できる多様な知識と分析能力を備えたビジネスパーソンの養成を目指しています。本専攻には2つのコースを設置しています。1つは、企業、および公共事業体で働く社会人を対象に高度なビジネス教育を行う企業経営戦略コースです。そしてもう1つは、主に大学新卒者と外国人留学生を対象に英語でMBA教育を行う国際経営コースです。非営利組織も含めたグローバルなビジネスシーンで必要となる知識・スキルを基礎から段階的に修得できるカリキュラムを採用しています。更に、両方のコースの学生が共に意見を英語で交換し、議論するハイブリッド科目も提供しています。

企業経営戦略コースでは、以下の7つのプログラム（主専攻）を提供しており、ジェネラリストキャリア（経営全般の知識・スキルを持つ者）として経営プログラム、テクノロジー・マネジメントプログラム、アントレプレナー・事業継承プログラム、自治体・医療・大学経営プログラム、中小企業診断士養成プログラムが、スペシャリストキャリア（特定の経営領域に特化した知識・スキルを持つ者）として、マーケティングプログラムとファイナンスプログラムがあります。

国際経営コースでは、国際ビジネスで必要とされるマネジメントプログラム、マーケティングプログラム、ファイナンスプログラム、グローバル・パブリック・マネジメントプログラム、ファミリー・ビジネス・マネジメントプログラムの5つのプログラム（主専攻）を提供しています。学生の実務経験が不十分であることを考慮し、具体的なテーマを取り上げたケーススタディやグループワーク、インターンシップなど、実践的な授業を通し、ビジネスの現場で不可欠な意思決定の能力を養成します。

いずれのコースも科目体系は、コア科目群（経営学の学習のインフラ部分となる科目）、ベーシック科目群（各プログラムの入り口科目とすべてのプログラムの基本となる科目群であり、主として経営分野の内容を学習する科目と内容を学習するための思考ツールの科目から構成）、そして各プログラムの専門的な内容を学習するアドバンスト科目群から構成されています。

コア科目では、本学のスクールモットーである“Mastery for Service”（奉仕のための練達）を理解するために企業倫理・Business Ethics が必修科目となっています。また課題研究・Individual Research は2年間の学習の集大成として「現場と理論」を架橋するテーマのもとで深い研究が行われます。

会計専門職専攻(アカウンティングスクール)

複雑化・多様化・国際化する経済環境のもと、企業や地方自治体における会計の専門的な担い手として、職業会計人が果たす役割と責任はますます増大しています。会計専門職専攻では、このような環境に対応できる高度な専門性、国際性と高い倫理観を持った職業会計人の育成を目指しています。

会計専門職専攻のカリキュラムは、広い分野について基本的な事項からより高度な知識と実務対応能力を身につけることができるように、専門分野の広がり観点から横系として財務会計、管理会計、監査、経営・経済、企業法の分野別科目群を置き、これらに深度の観点から縦系として、コア科目群、ベーシック科目群、アドバンスト科目群を置いて、全体として100を超える科目を配置しています。このように広がりと深みを持って体系的に配置された科目には、国際性と倫理観を涵養するための科目が含まれています。

多くの公認会計士や税理士などの職業会計人を輩出してきた関西学院大学の伝統と実績に基づき、また、スクールモットーである“Mastery for Service”(奉仕のための練達)のスピリットに則って、最高水準の会計教育を提供することが会計専門職専攻の使命と考えています。なお、会計専門職専攻が育成する職業会計人には、企業や官公庁において専門家として会計実務に携わる人たちをも包含しています。

博士課程後期課程 先端マネジメント専攻

◆ DP ◆

先端マネジメントに関わる諸領域において、先行研究や実社会での事象を十分に踏まえつつ、高度な分析手法と優れた考察、並びに独創的な知見に基づき、博士学位申請論文を作成・提出し、その審査に合格した者に対し、「博士(先端マネジメント)」の学位を与えます。

◆ CP ◆

3年以上在学し、必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び総合学力認定試験に合格することを修了要件としています。また、研究指導教員の判断と学生の研究計画に応じて、授業科目の「先端マネジメント特殊研究」を受講することとしています。以下にその研究指導の過程を示します。

(1) 1年次

「博士論文研究準備計画書」の作成、該当分野の基礎文献研究、主題に関わる研究分野の指導を受ける。また、関係分野の優れた内外の学術文献を多量に講読する。

(2) 2年次

博士論文の準備を推進するため、研究の目的・対象・方法論を明確にする指導を受け、学問的な研究の指導と共に、マネジメントの実際の理解を深め、実証的な研究を通じてそれを理論化する研究指導を受ける。「博士論文研究中間報告書」を提出し、2年次の終了時には、「総合学力認定試験」を受験する。

(3) 3年次

博士論文の完成に向けて、論文の構成・体系等枠組みの検討、実証性の確認、導かれる結論の検証など、最終的に論文を完成させるための研究指導を受ける。最終的な研究成果を公開形式で報告する。「博士論文」を提出する。